

工事完成図書の電子納品要領（案）

機械設備工事編

平成 31 年 3 月
（令和元年 6 月 正誤表対応版）

農林水産省 農村振興局 設計課
施工企画調整室

工事完成図書の電子納品要領（案）機械設備工事編

目 次

1	適用	1
2	用語の定義	2
3	フォルダ構成	4
4	成果物の管理項目	8
4-1	工事管理項目	8
4-2	台帳管理項目	15
4-3	その他管理項目	18
4-4	実施仕様書管理項目（完成図書）	20
4-5	計算書管理項目（完成図書）	22
4-6	施工図管理項目（完成図書）	24
4-7	機器図管理項目（完成図書）	26
4-8	施工管理記録書管理項目（完成図書）	28
4-9	取扱説明書管理項目（完成図書）	30
4-10	施工計画書管理項目	32
4-11	打合せ簿管理項目	34
5	ファイル形式	38
6	ファイルの命名規則	40
7	電子成果物	46
7-1	電子成果物	46
7-2	電子媒体の表記規則	47
7-3	電子媒体が複数枚に渡る場合の処置	48
8	その他留意事項	49
8-1	ウイルス対策	49
8-2	使用文字	49
8-3	オリジナルファイルの電子化について	50
8-4	施工中に紙資料で交換・共有した書類の取り扱い	50
付属資料 1	管理ファイルの DTD	付 1-1
付属資料 2	管理ファイルの XML 記入例	付 2-1
付属資料 3	図面・書類等の格納例	付 3-1
付属資料 4	場所情報の記入方法	付 4-1
付属資料 5	XML 文書作成における留意点	付 5-1

【改定履歴】

要領・基準名称	備 考
工事完成図書の電子納品要領（案）機械設備工事編 平成 17 年 3 月	平成 17 年 3 月制定 平成 19 年 3 月改正 平成 31 年 3 月廃止
工事完成図書の電子納品要領（案）機械設備工事編 平成 31 年 3 月	平成 31 年 3 月制定

1 適用

「工事完成図書の電子納品要領（案）機械設備工事編」（以下、「本要領（案）」という）は、施設機械工事等共通仕様書及び特別仕様書に規定される資料の中から、電子的手段によって発注者に提出する書類（以下、「電子成果物」という）の電子データの形式の標準を定めたものである。

【解説】

本要領（案）は、表 1-1 に示す共通仕様書及び特別仕様書に規定される資料の中から、電子的手段によって発注者に提出する電子成果物の電子データの形式の標準を定めている。

表 1-1 共通仕様書

NO.	名 称	制 定
1	施設機械工事等共通仕様書	農林水産省農村振興局整備部設計課
2	施設機械工事完成図書等作成要領	農林水産省農村振興局整備部設計課

電子成果物に位置付ける書類及び電子成果物のフォルダ構成は、共通仕様書及び電子納品等の運用を定めるガイドライン（以下「ガイドライン」という。）に示す。

各工事において適用されている規程と、本要領（案）の規定との間に差異がある場合は、監督職員の指示に従う。

2 用語の定義

本要領（案）に使用する用語は施設機械工事等共通仕様書のとおりとし、それ以外の用語は次に定めるところとする。

- ・ **納品**とは、受注者が発注者に工事完成時に成果物を納めることをいう。
- ・ **電子成果物**とは、電子的手段によって発注者に納品する成果物となる電子データをいう。
- ・ **電子納品**とは、電子成果物を納品することをいう。
- ・ **発注図**とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図及び設計図のもととなる設計計算書等をいう。ただし、詳細設計を含む工事においては契約図書及び監督職員の指示に従って作成したものを発注図とすることができる。ただし、本要領（案）で設計計算書等は対象外とする。
- ・ **施工図**とは、設計図書を踏まえて作成される図面のうち、当該設備の維持、修繕、改修、更新等のために必要なすべての部材の位置・組合せ、機器・部品等の形状、配管・配線等個々の機材、施工方法について受注者独自の施工技術に基づき、現地条件に対応した設備、機器の構造、接続・支持方法、納まり、制御システム等の詳細及び電子計算機で検討した経緯等を示す図面として作成されたもののうち、当該設備に限り使用権を発注者に移譲したものをいう。
- ・ **施工図面**とは、施工図の中で、CAD 図面で作図されたものをいう。
- ・ **完成図書**とは、工事完成時に提出する実施仕様書、計算書、詳細図、施工図、機器図、施工管理記録書、数量表、購入品等機器一覧表及び取扱説明書をいう。これらの書類は上記と同じ名前の各々のフォルダに電子納品される。また、それらの書類の詳細は以下のとおりとする。

- | | | |
|-----------|---|---|
| B 実施仕様書 | : | 設計図書に基づき受注者が仕様を明確にするために作成する書面をいう。 |
| B 計算書 | : | 設計図書に基づき、受注者が作成する詳細図にかかわる、強度、機能、数量の計算書をいう。 |
| B 施工図 | : | 設計図書を踏まえて作成される図面のうち、当該設備の維持、修繕、改修、更新等のために必要なすべての部材の位置・組合せ、機器・部品等の形状、配管・配線等個々の機材、施工方法に基づき、現地条件に対応した設備、機器の構造、接続・支持方法、納まり、制御システム等の詳細及び電子計算機で検討した経緯等を示す図面をいう。 |
| B 機器図 | : | 受注者が製作・購入する機器図をいう。 |
| B 施工管理記録書 | : | 品質管理（試験成績書等）、出来形管理、工程管理に関したものをいう。 |
| B 取扱説明書 | : | 設備全体及び機器単体の取扱説明書、及びサービス体制表をいう。 |

- ・ **施工計画書**とは、工事着手前に受注者から提出される工事目的物を完成させるために必要な手順や工法等について記載した文書及びその添付資料（文書、図面、写真）をいう。

- ・ **打合せ簿**とは、共通仕様書に示す書面に該当し、施工中に発注者と受注者間で手書き、印刷物等や情報共有システムを利用して電子的に授受される伝達物をいう。
- ・ **工事写真**とは、工事着手前及び工事完成、また、施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後に目視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を「施設機械工事等施工管理基準に示す撮影記録による施工管理」により撮影したものをいう。なお、工事写真の電子データは「電子化写真データの作成要領（案）」に基づき作成する。
- ・ **出来形管理資料**とは、測定結果総括表、測定結果一覧表、出来形管理図表、出来形管理図、出来形管理表、度数表等をいう。
- ・ **品質管理資料**とは、品質管理表、測定結果総括表、測定結果一覧表、品質管理図、度数表等をいう。
- ・ **工事帳票**とは、施工計画書、打合せ簿、品質管理資料、出来形管理資料等の定型様式の資料、及び打合せ簿等に添付して提出される非定型の資料をいう。
- ・ **工事書類**とは、工事写真及び工事帳票をいう。
- ・ **工事完成図**とは、出来形測定の結果及び設計図書に従って作成した図面をいう。なお、工事完成図の電子データは「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」の規定に基づき作成する。
- ・ **台帳**とは、設計図書に従って工事目的物の完成状態を台帳として記録した工事管理台帳をいう。工事管理台帳は、工事目的物の諸元をとりまとめた施設管理台帳と工事目的物の品質記録をとりまとめた品質記録台帳をいう。
- ・ 機械設備工事編で管理する施設機器コードを格納する場合は、「**施設台帳**」と「**機器台帳**」を利用して管理する。詳細については「電子納品要領（案）機械設備工事編 施設機器コード」を参照する。
- ・ **工事完成図書**とは、工事完成時に納品する成果物をいう。なお、電子成果物は、ガイドラインに基づき作成する。

3 フォルダ構成

発注者が貸与する発注図の電子データは、次に示すフォルダ構成とする。

ルート直下に「DRAWINGS」フォルダを置く。図面管理ファイルを規定する DTD 及び XML ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。

電子成果物は、次に示すフォルダ構成とする。

ルート直下に「DRAWINGF」、「REGISTER」、「BORING」、「OTHS」、「K_BOOK」のフォルダ及び工事管理ファイルを置く。各管理ファイルを規定する DTD 及び XSL ファイルも該当フォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。

「REGISTER」、「OTHS」フォルダの下に「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダを置く。格納する電子データファイルがないフォルダは作成しなくてもよい。

各フォルダ及びオリジナルファイルフォルダに格納するファイルは、次の通りとする。

- ・ 「DRAWINGF」フォルダには、施工図面、完成図の電子データファイルを「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」に従い格納する。
- ・ 「REGISTER」フォルダは、台帳管理ファイルと施設台帳ファイル、機器台帳ファイル、その他管理台帳管理ファイル（施設台帳ファイルや機器台帳ファイル以外の台帳ファイル）を格納する。

施設台帳ファイルや機器台帳ファイルが存在する場合は、本要領（案）「台帳管理項目」を参考として台帳管理ファイル（REGIST_M.XML）を記入する。その際は「電子納品要領（案）機械設備工事編 施設機器コード」を参照とする。

施設台帳ファイルや機器台帳ファイル以外の台帳ファイルが存在する場合は、台帳管理ファイル（REGIST_M.XML）を記入し、「ORGnnn」オリジナルファイルに台帳オリジナルファイルを格納する。

「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダには、台帳オリジナルファイルを格納する。

「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダの「nnn」は数字を示しており、連番とする。ただし、発注者の指示及び、参照する各種要領（案）等により指定されている場合は連番としなくてもよい。

DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。

- ・ 「BORING」フォルダには、地質・土質調査の電子データファイルを「地質・土質調査成果電子納品要領（案）」に従い格納する。
- ・ 「OTHS」フォルダは、ガイドラインで示す書類を格納する場合に作成することができ、作成する際は、その他管理ファイルを格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダは監督職員の承諾を得て複数作成することができ、各工事の特性に応じたデータ等を格納する。「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダの「nnn」は数字を示しており、連番とする。ただし、発注者の指示及び、参照する各種要領（案）等により指定されている場合は連番としなくてもよい。
- ・ 「K_BOOK」フォルダには、「B_SPC」、「B_CHECK」、「B_INST」、「B_DEVICE」、「B_EXAM」、「B_MANUAL」サブフォルダを置く。

「K_BOOK」フォルダでは、管理ファイルをそれぞれのサブフォルダに置く。
DTD 及び XSL ファイルはそれぞれのサブフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。

- ・ 「B_SPC」サブフォルダには実施仕様書管理ファイルと実施仕様書ファイルを格納する。
- ・ 「B_CHECK」サブフォルダには計算書管理ファイルと計算書ファイル、検討書ファイル、数量表ファイル（必要時）を格納する。
- ・ 「B_INST」サブフォルダには施工図管理ファイルと施工図ファイルを格納する。
- ・ 「B_DEVICE」サブフォルダには機器図管理ファイルと機器図ファイルを格納する。
- ・ 「B_EXAM」サブフォルダには施工管理記録書管理ファイルと品質ファイル（試験成績書等）、出来形ファイル、工程ファイル等を格納する。
- ・ 「B_MANUAL」サブフォルダには取扱説明書管理ファイルと取扱説明書ファイル、サービス体制ファイルを格納する。

情報共有システムから工事帳票を出力する場合は、次に示すフォルダ構成とする。ルート直下に「PLAN」、「MEET」、「OTHS」のフォルダ及び工事管理ファイルを置く。各管理ファイルを規定する DTD 及び XSL ファイルも該当フォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。「PLAN」、「MEET」、「OTHS」フォルダの下に「ORG」オリジナルファイルフォルダを置く。格納する電子データファイルがないフォルダは作成しなくてもよい。

各フォルダ及びオリジナルファイルフォルダに格納するファイルは、次の通りとする。

- ・ 「PLAN」フォルダには、施工計画書管理ファイルを格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。
- ・ 「ORG」オリジナルファイルフォルダには、施工計画書オリジナルファイルを格納する。
- ・ 「MEET」フォルダには、打合せ簿管理ファイルを格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。
- ・ 「ORG」オリジナルファイルフォルダには、打合せ簿オリジナルファイル、打合せ簿（鑑）に添付した工事書類のオリジナルファイルを格納する。
- ・ 「OTHS」フォルダは、ガイドラインで示す書類を格納する場合に作成することができ、作成する際は、その他管理ファイルを格納する。DTD 及び XSL ファイルもこのフォルダに格納する。ただし、XSL ファイルの格納は任意とする。
- ・ 「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダは監督職員の承諾を得て複数作成することができ、各工事の特性に応じたデータ等を格納する。「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダの「nnn」は数字を示しており、連番とする。ただし、発注者の指示及び、参照する各種要領（案）等により指定されている場合は連番としなくてもよい。
- ・ 「PHOTO」フォルダには、工事写真の電子データファイルを「電子化写真データの作成要領（案）」に従い格納する。

フォルダ作成上の留意事項は次の通りとする。

- ・ フォルダ名称は、半角英数大文字とする。
- ・ 「REGISTER」及び「OTHRs」フォルダ以外の各フォルダは、「ORG」オリジナルファイルフォルダ内に対象ファイルを格納し、「ORG」オリジナルファイルフォルダの中で階層分けは行わない。

【解説】

(1) 「DRAWINGF」フォルダ（施工図面・完成図フォルダ）

当該設備に限り使用权を発注者に移譲した施工図面の電子データファイルを「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」に従い格納する。

(2) REGISTER フォルダ（台帳フォルダ）

「REGISTER」フォルダに格納するファイルは、「台帳管理ファイル」だけでなく、機械設備工事編で管理する施設機器コードとなる「施設台帳ファイル」「機器台帳ファイル」も対象となる。

1) その他管理台帳ファイルが存在する場合

機械設備工事編で管理する施設機器コード（施設台帳ファイル、機器台帳ファイル）以外のその他管理台帳ファイルが存在する場合は、台帳管理ファイル（REGIST_M.XML）に記入を行い、「ORGnnn」（台帳オリジナルファイルフォルダ）」に該当するオリジナルファイルを格納する。

(A) 台帳管理ファイル

機械設備工事編で管理する施設機器コード（施設台帳ファイル、機器台帳ファイル）以外のその他管理台帳ファイルが存在する場合は、「REGISTER」フォルダに台帳管理ファイル（REGIST_M.XML）」を格納する。

(B) 台帳オリジナルファイルフォルダ

機械設備工事編で管理する施設機器コード（施設台帳ファイル、機器台帳ファイル）以外のその他管理台帳ファイルが存在し、その他管理台帳管理ファイルを記入した場合は、該当するオリジナルファイルを「台帳オリジナルファイルフォルダ」に格納する。

2) 施設機器コードファイルが存在する場合

機械設備工事編で管理する施設機器コードとなる「施設台帳」、「機器台帳」が存在する場合は、「成果物の管理項目－台帳管理項目－ファイル情報－台帳種類」の項目にファイル有「1」または「2」と記入した上で、「施設台帳ファイル」と「機器台帳ファイル」を格納する。

(A) 施設台帳ファイルと機器台帳ファイル

「施設台帳ファイル」と「機器台帳ファイル」は、台帳管理項目（台帳の属性を表すデータ）で、XML で記入したファイルである。「施設台帳ファイル」と「機器台帳ファイル」は今後、維持管理において必要となるデータで、XML 文書で記入したファイルである。「施設台帳ファイル」と「機器台帳ファイル」は任意扱いとし、必要に応じて発注者と受注者協議の上記入する。

「施設台帳ファイル」と「機器台帳ファイル」は XML ファイルで格納し、「DLI03.DTD」、「DLA03.DTD」もこのフォルダに格納する。

(3) OTHRs フォルダ（その他フォルダ）

- ・ 「OTHERS」フォルダにはガイドラインで示す書類を作成する際は、その他管理ファイルを格納する。「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダは、ガイドラインで示す書類を格納する場合に複数作成することができる。
- ・ 「REGISTER」及び「OTHERS」フォルダの、「ORGnnn」オリジナルファイルフォルダ内には任意でフォルダを作成することができるが、階層は、「7-1 電子成果物」において使用を原則とする CD-R の論理フォーマットの制約から階層の制限は無いが、全体のパスの文字数は 120 文字までとなることに注意する。
- ・ オリジナルファイルとは、「CAD、ワープロ、表計算ソフト等で作成した電子データ」を指す。なお、PDF ファイル等を含む。
- ・ 各要領（案）に記載されていないフォルダについては作成しない。
- ・ 本要領（案）や他の要領（案）はホームページ等で確認し最新のものを取得すること。また、正誤表等についても、確認すること。

(4) K_BOOK フォルダ（完成図書フォルダ）

「K_BOOK」フォルダの各サブフォルダには、PDF 形式でファイルを格納する。なお、各サブフォルダに格納する図面・書類等の範囲は付属資料 3 を参照のこと。

※ ルート

ルートとは階層型ファイル構造における最上階層のディレクトリやフォルダのことをいう。

※ XML eXtensible Markup Language(拡張型構造化記述言語)

ユーザが任意でデータ(タグ)の要素・属性や論理構造を定義できる記述言語(メタ言語)であり、1998 年 2 月に W3C(WWW コンソーシアム)において策定された。

※ DTD Document Type Definitions(文書型定義)

XML 文書では、ユーザが任意でデータ(タグ)の要素・属性や文書構造を定義したものを DTD(文書型定義)という。文書に含まれるデータの要素名や属性や構造を表現する。

※ XSL eXtensible Style Language

XML 文書の書式(体裁)を指定するスタイルシートを提供する仕様であり、「標準仕様書 TSX0088:2006 拡張可能なスタイルシート(XSL)1.1」、「JIS X 4169:2007 XSL 交換(XSLT)1.0」の規格がある。

4 成果物の管理項目

4-1 工事管理項目

電子成果物に格納する工事管理ファイル（INDEX_MC.XML）に記入する工事管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-1 工事管理項目（1/4）

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
基礎情報	メディア番号	提出した電子媒体の通し番号を記入する。単一の電子媒体であれば 1 となる。	半角数字	8	□	◎
	メディア総枚数	提出した電子媒体の総枚数を記入する。	半角数字	8	□	◎
	適用要領基準	電子成果物の作成で適用した要領(案)・基準の版(「農村振興機械 201903-01」で固定)を記入する。 (分野:農村振興機械、西暦年:2019、月:03、版:01)	全角文字 半角英数字	30	▲	◎
	施工図面・完成図フォルダ名	施工図面・完成図を格納するために「DRAWINGF」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(DRAWINGF で固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○
	台帳フォルダ名	施設台帳ファイル、機器台帳ファイルやその他の台帳管理ファイルを格納するためのフォルダ名称「REGISTER」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(REGISTER で固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○
	台帳オリジナルファイルフォルダ名 ※詳細は別添	台帳オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(REGISTER/ORG001～nnn)を記入する(nnn は連番を示す)。台帳オリジナルファイルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	15 固定	▲	◎
		台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名	全角文字 半角英数字	127	▲	◎
	地質データフォルダ名	地質データを格納するために「BORING」フォルダ作成した場合はフォルダ名称(BORNG で固定)を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○
	その他フォルダ名	その他資料を格納するために「OTHERS」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(OTHERS で固定)を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○
	その他オリジナルファイルフォルダ名 ※詳細は別添	その他オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(OTHERS/ORG001～nnn)を記入する(nnn は連番を示す)。その他オリジナルフォルダがある場合は必ず記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	◎
		その他オリジナルファイルフォルダ日本語名	全角文字 半角英数字	127	▲	◎
	完成図書フォルダ名	完成図書を格納するために「K_BOOK」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(K_BOOK で固定)を記入する。	半角英数大文字	6 固定	▲	○
	B 実施仕様書フォルダ名	B 実施仕様書管理ファイルと実施仕様書ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_SPC で固定)を記入する。	半角英数大文字	12 固定	▲	○
	B 計算書フォルダ名	B 計算書管理ファイルと計算書・検討書・数量表ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_CHECK で固定)を記入する。	半角英数大文字	14 固定	▲	○
	B 施工図フォルダ名	B 施工図管理ファイルと施工図ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_INST で固定)を記入する。	半角英数大文字	13 固定	▲	○

表 4-1 工事管理項目 (2/4)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
基礎情報	B 機器図フォルダ名	B 機器図管理ファイルと機器図ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_DEVICE で固定)を記入する。	半角英数大文字	15 固定	▲	○	
	B 施工管理記録書フォルダ名	B 施工管理記録書管理ファイルと施工管理記録書ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_EXAM で固定)を記入する。	半角英数大文字	13 固定	▲	○	
	B 取扱説明書フォルダ名	B 取扱説明書管理ファイルと取扱説明書・サービス体制ファイルを格納するフォルダ名称(K_BOOK/B_MANUAL で固定)を記入する。	半角英数大文字	15 固定	▲	○	
	写真フォルダ名	写真を格納するために「PHOTO」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(PHOTO で固定)を記入する。	半角英数大文字	5 固定	▲	○	
	施工計画書フォルダ名	施工計画書を格納するために「PLAN」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(PLAN で固定)を記入する。	半角英数大文字	4 固定	▲	○	
	施工計画書オリジナルファイルフォルダ名	施工計画書オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(PLAN/ORG で固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○	
	打合せ簿フォルダ名	打合せ簿を格納するために「MEET」フォルダを作成した場合はフォルダ名称(MEET で固定)を記入する。	半角英数大文字	4 固定	▲	○	
	打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名	打合せ簿オリジナルファイルを格納するフォルダ名称(MEET/ORG で固定)を記入する。	半角英数大文字	8 固定	▲	○	
工事件名等	発注年度		工事の発注年度を西暦 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	□	◎
	工事番号		発注者が定める案件番号を記入する。	半角英数字	127	□	◎
	工事名称		契約図書に記載されている正式の工事名称を記入する。	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	施工金額		コリンズの「請負金額」に従って記入する。	半角数字	16	■	◎
	工事实績システム登録番号		コリンズセンターが発行する登録内容確認書に記載される番号を記入する。コリンズ登録番号がない工事は「0」を記入する。	半角英数字	11	■	◎
	工事分野		コリンズの「工事の分野」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎
	工事業種		コリンズの「工事の業種」に従って記入する。	全角文字 半角英数字	16	■	◎
	工法型式※	工種	コリンズの「工種、工法・型式」の「工種」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
		工法型式	コリンズの「工種、工法・型式」の「工法・型式」を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	■	◎
	住所情報※	住所コード	該当地域の住所コードをコリンズの表より選択し記入する。該当がない場合は「99999」とする。(複数記入可)	半角数字	5	□	◎
		住所	該当地域の住所を記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	工期開始日		工期の開始日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成 22 年 4 月 1 日 → 2010-04-01	半角数字 — (HYPHEN-MINUS)	10	■	◎
	工期終了日		工期の終了日の年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成 22 年 12 月 3 日 → 2010-12-03	半角数字 — (HYPHEN-MINUS)	10	■	◎
	工事内容		工事概要及び主工種とその数量を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎

表 4-1 工事管理項目 (3/4)

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度		
場所情報	測地系		日本測地系、世界測地系(JGD2000)、世界測地系(JGD2011)の区分コードを記入する。日本測地系は「00」、世界測地系(JGD2000)は「01」、世界測地系(JGD2011)は「02」を記入する。	半角数字	2 固定	☐	○	
	水系路線情報※	対象水系路線名	コリンズの路線・水系名等に従って記入する。複数の水系・路線にまたがる工事の場合、関連する水系・路線名を記入する。当該情報が複数ある場合の記入方法は付属資料 4 を参照のこと。	全角文字 半角英数字	127	■	○	
		現道-旧道区分	「現道:1」、「旧道:2」、「新道:3」、「未調査:0」のいずれかを記入する。	半角数字	1 固定	☐	○	
		対象河川コード	「河川コード仕様書」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。(複数記入可)	半角数字	10 固定	☐	○	
		左右岸上下線コード	河川の左岸・右岸の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。(複数記入可)	半角数字	2 固定	☐	○	
		測点情報※	起点側測点-n	(自)n+m n を 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	☐	○
			起点側測点-m	(自)n+m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
			終点側測点-n	(至)n+m n を 4 桁で記入する。	半角数字	4 固定	☐	○
			終点側測点-m	(至)n+m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
		距離情報※	起点側距離標-n	(自)n+m n を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
			起点側距離標-m	(自)n+m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
			終点側距離標-n	(至)n+m n を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
			終点側距離標-m	(至)n+m m を 3 桁で記入する。	半角数字	3 固定	☐	○
	境界座標情報	西側境界座標経度	対象領域の最西端の外側境界の経度を記入する。度(4 桁) 分(2 桁) 秒(2 桁) 対象領域が西経の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINUS)を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 -(HYPHEN-MINUS)	8	☐	○	
		東側境界座標経度	対象領域の最東端の外側境界の経度を記入する。度(4 桁) 分(2 桁) 秒(2 桁) 対象領域が西経の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINUS)を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 -(HYPHEN-MINUS)	8	☐	○	
		北側境界座標緯度	対象領域の最北端の外側境界の緯度を記入する。度(4 桁) 分(2 桁) 秒(2 桁) 対象領域が南緯の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINUS)を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 -(HYPHEN-MINUS)	8	☐	○	
		南側境界座標緯度	対象領域の最南端の外側境界の緯度を記入する。度(4 桁) 分(2 桁) 秒(2 桁) 対象領域が南緯の場合は頭文字に-(HYPHEN-MINUS)を含み 4 桁を記入する。該当がない場合は「99999999」とする。	半角数字 -(HYPHEN-MINUS)	8	☐	○	

表 4-1 工事管理項目 (4/4)

分類・項目名	記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
発注者情報	発注者-大分類	コリンズの「発注機関名・中分類」に従い、発注者の官庁名、団体名等を記入する。	全角文字 半角英数字	16	■ ◎
	発注者-中分類	コリンズの「発注機関名・小分類」に従い、発注者の局名、支社名等を記入する。	全角文字 半角英数字	32	■ ◎
	発注者-小分類	コリンズの「発注機関名・細分類」に従い、記入する。「発注機関名・細分類」が空白の場合は、記入は不要とする。	全角文字 半角英数字	30	■ ○
	発注者コード	発注者が定める「発注者コード(事業コード)」を記入する。	半角英数字	8 固定	■ ◎
受注者情報	受注者名	受注者名の正式名称を記入する。JVの場合には、JVの正式名称及び代表会社名を続けて記入する。	全角文字 半角英数字	127	■ ◎
	受注者コード	発注者が定める受注者コードを記入する。(契約事務システムの業者コードの前 10 桁を記入する。)	半角数字	127	□ ○
予備	特記事項がある場合に記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 ■：コリンズから出力される XML ファイルから取り込むことが可能な項目。

□：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。(データが分かる場合は必ず記入する)

△：任意記入。

※複数ある場合には、この項を必要回数繰り返す。

【解説】

(1) 基礎事項

- ・ 工事管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 工事管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ 案件番号は、発注者が定める「局コード 2 桁」＋「西暦年度 4 桁」＋「事業所コード 3 桁」＋「整理番号 4 桁」(数字 13 桁)を記入する。整理番号は、発注者で運用している契約事務システムの整理番号を記入する。
- ・ コリンズ(Construction Records Information System)は、「工事実績と技術者のデータベース」であり、公共工事の一般競争入札方式等の入札・契約手続きを支援する。
- ・ 契約事務システムは、発注者で運用している入札、契約及び競争参加資格審査の事務

を行うシステムである。

(2) 場所に関わる情報の記入（詳細は付属資料 4 参照）

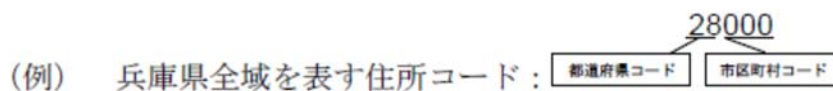
1) 「住所コード」（必須記入項目）

住所コードは工事対象地域が位置する都道府県または市区町村を表し、下記 URL で公開されているコード表から選択し、記入する。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/sonota.html

工事対象地域が複数の市区町村にまたがる場合は、該当する市区町村コードをすべて記入する（複数記入可）。工事対象地域の境界が判定し難い場合は、わかる範囲で記入する。また、工事対象地域の範囲により、市区町村コード・都道府県コードを選択して記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999」（対象地域なし）を記入する。

住所コードを都道府県レベルで表す場合は、全 5 桁の住所コードのうち市区町村コード部（下 3 桁）を「000」として記入する。



2) 「住所」（必須記入項目）

住所は設計図書等に明示されている履行場所の住所、地名（〇〇事務所管内、〇〇川流域など）を含め、該当地域の住所を記入する（複数記入可）。文字コードは全角文字・半角英数字を標準とし、全角英数字は用いない。また、原則として住所に俗称は用いない。

3) 場所情報

場所情報については、特定の場所・地域によらない工事を除き「境界座標」を記入する。水系・路線により場所が示される工事においては「測点」または「距離標」のいずれかを記入することができる。また、「測点」及び「距離標」は「対象水系路線名」、「対象河川コード」（いずれも複数記入可）の件数に対応して複数記入することができる。

(A) 測点（条件付き必須記入項目）

工事対象となる起点側測点及び終点側測点を測点番号 (n) 及び測点からの距離 (m) の組み合わせで記入する（複数記入可）。

(B) 対象水系路線名

対象水系路線名は対象水系路線名の情報がある場合に記入する。

(C) 現道-旧道区分

現道-旧道区分は、「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準第 3.0 版平成 15 年 4 月財団法人 日本デジタル道路地図協会」に準拠し、「現道：1」、「旧道：2」、「新道：3」、「未調査：0」のいずれかを記入する。

(D) 対象河川コード

対象河川コードは「河川コード仕様書 国土交通省河川局」に準拠し発注者が指示する河川コードを記入する。（複数記入可）。なお、河川コードを記入する場合は左右岸コードを併せて記入する。

(E) 左右岸上下線コード

場所情報として距離標を記入する場合は、河川の左岸・右岸等の別または道路の上下線の別を示す左右岸上下線コードを記入する。

(河川)00：不明、01：左岸、02：右岸、03：中州、99：その他

(道路)00：不明、10：上り線、20：下り線、30：上下線共通、99：その他

*左右岸コードは「河川基盤地図ガイドライン(案)第 2.1 版平成 13 年 12 月国土交通省河川局河川計画課」に準拠している。

*上下線コードは「道路管理関係デジタル道路地図データベース標準 第 3.0 版平成 15 年 4 月 財団法人 日本 デジタル道路地図協会」に基づき左右岸コードとのコードの重複を避けるため「0」を付加して桁上げしている。

*「99：その他」は水部・河川敷部外、車道部外等の場合に適用する。

(F) 距離標（条件付き必須記入項目）

工事対象となる起点側距離標及び終点側距離標について、起点側からの距離「〇〇〇km」「△△△m」を各々「距離標-n」及び「距離標-m」として記入する（複数記入可）。

(G) 境界座標（条件付き必須記入項目）

「境界座標」は世界測地系（JGD2011）に準拠する。なお、境界座標を JGD2000 の測地系で取得した場合には、JGD2011 の座標（緯度経度）に変換する必要はない。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々度（3 桁）分（2 桁）秒（2 桁）で表される 7 桁の数値を記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「-」（HYPHEN-MINUS）を記入する。

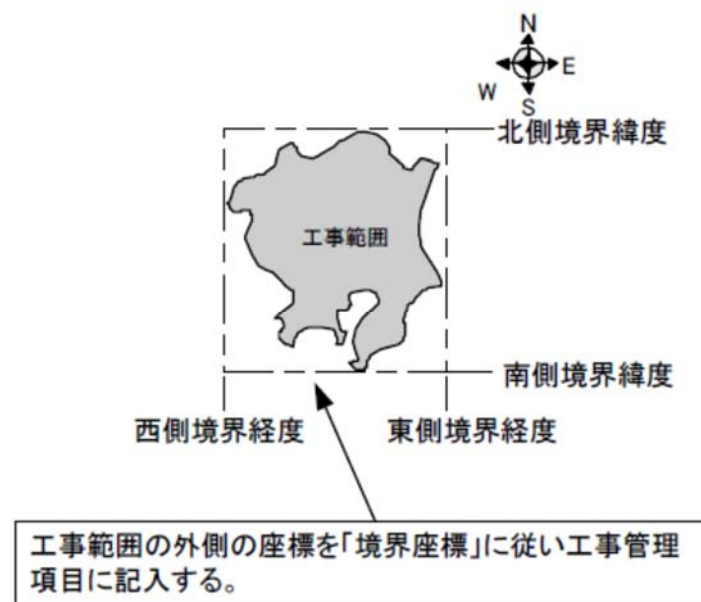


図 4-1 境界座標が示す範囲

<境界座標の取得精度について>

成果物の「工事管理ファイル」の管理項目に記入する境界座標の精度は、工事範囲にもよるが 100m 程度を目安とする（ちなみに、経緯度の 1 秒は地上距離で約 30m に相当す

る)。なお、工事範囲が大きくなれば一般に精度も粗くなるが、可能な範囲の精度で取得することが望ましい。

(3) 発注者に関わる情報の記入

発注者コードは、下記 URL で公開されているコード表から選択し、記入する。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/sonota.html

4-2 台帳管理項目

台帳管理ファイルは、機械設備工事編で管理する「施設台帳」「機器台帳」と「その他管理台帳」のいずれかの台帳ファイルが存在する場合に記入する。ルート直下の台帳フォルダに格納する台帳管理ファイル（REGIST_M.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-2 台帳管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
ファイル情報	台帳種類※1	格納する「施設台帳」、「機器台帳」、「その他管理台帳」のファイルの有無について記入する。 1：施設台帳 2：機器台帳 3：その他管理台帳	半角英数字	1 固定	□	◎
	台帳名	台帳の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
台帳情報※2	台帳オリジナルファイル情報※3	台帳オリジナルファイル名 (拡張子を含む)	半角英数大文字	13	▲	◎
		台帳オリジナルファイル日本語名	全角文字 半角英数字	127	□	△
		台帳オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		台帳オリジナルファイル内容	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード※4	半角英数字	17	□	◎
	台帳その他	台帳受注者説明文	全角文字 半角英数字	127	□	△
		台帳発注者説明文	全角文字 半角英数字	127	□	△
		台帳予備	全角文字 半角英数字	127	□	△
	サブフォルダ情報※1	台帳サブフォルダ名	半角英数大文字	6 固定	□	◎
		台帳サブフォルダ日本語名	全角文字 半角英数字	127	□	○
		資料名	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		台帳管理区分-大分類	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		台帳管理区分-小分類	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		資料オリジナル 資料オリジナル ファイル名	半角数字 半角英数大文字	5 13	□ □	■ ◎ ◎

	ファイル情報※	資料オリジナルファイル日本語名	台帳のオリジナルファイルの日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		資料オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した台帳オリジナルファイルの作成ソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		資料オリジナルファイル内容	台帳オリジナルファイルの内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	受注者の旨	資料受注者説明文	受注者側で台帳に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		資料発注者説明文	発注者側で台帳に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		資料予備	説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
	ソフトメーカー用 TAG		ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】 □：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成支援ツール等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。(データが分かる場合は必ず記入する)

△：任意記入。

■：台帳サブフォルダに格納しているファイルを台帳管理ファイルにおいて管理する際に記入する。

※1 複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

※2 台帳情報以下は、「施設台帳」「機器台帳」に関する台帳情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3 ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※4 施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【解説】

- ・ 台帳管理項目は、ルート直下の台帳フォルダに格納する電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 台帳管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ 台帳管理ファイルにおいて台帳サブフォルダ内のファイルを管理する場合は、台帳サブフォルダの直下にオリジナルファイルを格納する。台帳サブフォルダ内にフォルダを作成することは可能であるが、その際、台帳管理ファイルでは、作成したフォルダ及びフォルダ内に格納されているファイルの管理は行わない。
(ORG サブフォルダレベルでの管理とする)。
- ・ 台帳管理ファイルの記入例を以下に示す。

(例 1) 施設台帳ファイルだけが存在する場合

- ① 工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) の「基礎情報-台帳フォルダ名」に「REGISTER」と記入する。

- ② 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「ファイル情報-台帳種類」に「1」と記入する。
- ③ 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「台帳情報」に施設台帳に関連する事項を記入する。
- ④ 「電子納品要領 (案) 機械設備工事編施設機器コード」に従い、施設台帳ファイル (XML) を作成して格納する。

※台帳オリジナルファイルフォルダの作成は不要

(例2) 機器台帳ファイルだけが存在する場合

- ① 工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) の「基礎情報-台帳フォルダ名」に「REGISTER」と記入する。
- ② 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「ファイル情報-台帳種類」に「2」と記入する。
- ③ 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「台帳情報」に機器台帳に関連する事項を記入する。
- ④ 「電子納品要領 (案) 機械設備工事編施設機器コード」に従い、機器台帳ファイル (XML) を作成して格納する。

※台帳オリジナルファイルフォルダの作成は不要

(例3) その他管理台帳ファイルだけが存在する場合

- ① 工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) の「基礎情報-台帳フォルダ名」に「REGISTER」と記入し、「基礎情報-台帳オリジナルファイルフォルダ情報 (台帳オリジナルファイルフォルダ名、台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名)」を記入する。
- ② 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「ファイル情報-台帳種類」に「3」と記入した上で、必要な情報を記入する。
- ③ 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「サブフォルダ情報」にその他管理台帳に関連する事項を記入する。
- ④ 台帳オリジナルファイルフォルダ (ORGnnn) に該当するファイルを格納する。

(例4) 施設台帳ファイル、機器台帳ファイル、その他管理台帳ファイルが存在する場合

- ① 工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) の「基礎情報-台帳フォルダ名」に「REGISTER」と記入し、「基礎情報-台帳オリジナルファイルフォルダ情報 (台帳オリジナルファイルフォルダ名、台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名)」を記入する。
- ② 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「ファイル情報-台帳種類」に「1」「2」「3」と記入する。
- ③ 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「台帳情報」に施設台帳と機器台帳に関連する事項を記入する。
- ④ 「電子納品要領 (案) 機械設備工事編施設機器コード」に従い、施設台帳ファイル (XML) と機器台帳ファイル (XML) を作成して格納する。
- ⑤ 台帳管理項目 (REGIST_M.XML) の「サブフォルダ情報」にその他管理台帳に関連する事項を記入する。
- ⑥ 台帳オリジナルファイルフォルダ (ORGnnn) に該当するファイルを格納する。

4-3 その他管理項目

電子成果物に格納するその他管理ファイル（OTHERS.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-3 その他資料管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度		
サブフォルダ情報※	その他サブフォルダ名		作成したその他サブフォルダ名 (ORG001～nnn)を記入する。	半角英数大文字	6	▲	◎	
	その他サブフォルダ日本語名		格納している資料の内容がわかるようにフォルダの日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	○	
	その他資料情報※	資料名	その他サブフォルダ名に格納している資料名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
		オリジナルファイル情報	シリアル番号	シリアル番号は 1 より開始する。提出時の電子媒体を通して、一連のまとまった資料についてユニークであれば、中抜けしても良い。2 番目を、“00002”の様に 0 を付けて表現してはいけない。	半角数字	5	□	◎
			オリジナルファイル名	その他資料のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	13	▲	◎
			オリジナルファイル日本語名	オリジナルファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
			オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納したオリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
			オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくはその他資料のオリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△	
		発注者説明文	発注者側で特記すべき事項がある場合 (発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△	
		予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△	
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△		

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】□：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

■：ORG サブフォルダに格納しているファイルをその他管理ファイルにおいて管理する際に記入する。記入の有無は、格納するデータの特性を踏まえ、監督職員の指示に従う。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- ・ その他管理項目は、ルート直下のその他フォルダに格納する電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ その他管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ その他管理ファイルにおいて ORG サブフォルダ内のファイルを管理する場合は、ORG サブフォルダの直下にオリジナルファイルを格納する。ORG サブフォルダ内にフォルダを作成することは可能であるが、その際、その他管理ファイルでは、作成したフォルダ及びフォルダ内に格納されているファイルの管理は行わない(ORG サブフォルダレベルでの管理とする)。

4-4 実施仕様書管理項目（完成図書）

電子成果物（完成図書フォルダ）に格納する実施仕様書管理ファイル（BS.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-4 実施仕様書管理項目

分類・項目名			記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
実施仕様書情報※1)	実施仕様書名称		実施仕様書の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報※2)	実施仕様書オリジナルファイル名	実施仕様書のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		実施仕様書オリジナルファイル日本語名	実施仕様書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した実施仕様書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは実施仕様書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード ※3)	施設コードの記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	17	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で実施仕様書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で実施仕様書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
	ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカが管理のために使用する。 (複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 実施仕様書情報以下は、実施仕様書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】 □：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 実施仕様書管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 実施仕様書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-5 計算書管理項目（完成図書）

電子成果物（完成図書フォルダ）に格納する計算書管理ファイル（BC.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-5 計算書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
計算書情報※1)	計算書名称		計算書・検討書・数量表の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報※2)	計算書オリジナルファイル名	計算書・検討書・数量表のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		計算書オリジナルファイル日本語名	計算書・検討書・数量表のファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		計算書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した計算書・検討書・数量表を作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは計算書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード※3)	施設コードの記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	17	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で計算書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で計算書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
	ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 計算書情報以下は、計算書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】 □：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 計算書管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 計算書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-6 施工図管理項目（完成図書）

電子成果物（完成図書フォルダ）に格納する施工図管理ファイル（BI. XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-6 施工図管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
施工図情報※1)	施工図名称	施工図の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	施工図オリジナルファイル名	施工図のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
	施工図オリジナルファイル日本語名	施工図ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	施工図オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した施工図オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは施工図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	施設コード※3)	施設コードの記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	17	□	◎
	受注者説明文	受注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	発注者説明文	発注者側で施工図に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
	ソフトウェア用 TAG	ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 施工図情報以下は、施工図情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コードは、施設コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】 □：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】 ◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 施工図管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 施工図管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-7 機器図管理項目（完成図書）

電子成果物（完成図書）に格納する機器図管理ファイル（BD. XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-7 機器図管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
機器図情報※1)	機器図名称	機器図の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	機器図オリジナルファイル名	機器図のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
	機器図オリジナルファイル日本語名	機器図ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	機器図オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した機器図オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは機器図オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	施設コード※3)	施設コードの記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	17	□	◎
	機器コード※3)	機器コードの記入は任意扱いとするため、機器コードが発生しない場合は「ZZ」を記入する。 機器コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	14	□	◎
	受注者説明文	受注者側で機器図に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	発注者説明文	発注者側で機器図に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトメーカ用 TAG		ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 機器図情報以下は、機器図情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）
△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 機器図管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 機器図管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-8 施工管理記録書管理項目（完成図書）

電子成果物（完成図書）に格納する施工管理記録書管理ファイル（BE. XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-8 施工管理記録書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
施工管理記録書情報※1)	施工管理記録書名称	品質管理(試験成績書等)、出来形管理、工程管理の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	施工管理記録書オリジナルファイル名	施工管理記録書のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
	施工管理記録書オリジナルファイル日本語名	施工管理記録書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した施工管理記録書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは施工管理記録書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	施設コード※3)	施設コードの記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	17	□	◎
	機器コード※3)	機器コードの記入は任意扱いとするため、機器コードが発生しない場合は「ZZ」を記入する。 機器コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	14	□	◎
	受注者説明文	受注者側で施工管理記録書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	発注者説明文	発注者側で施工管理記録書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
	予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 施工管理記録書情報以下は、施工管理記録書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 施工管理記録書管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 施工管理記録書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-9 取扱説明書管理項目（完成図書）

電子成果物（完成図書フォルダ）に格納する取扱説明書管理ファイル（BM.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-9 取扱説明書管理項目

分類・項目名			記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度
取扱説明書情報※1)	取扱説明書名称		取扱説明書、サービス体制ファイルの標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	オリジナルファイル情報※2)	取扱説明書オリジナルファイル名	取扱説明書のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	12	▲	◎
		取扱説明書オリジナルファイル日本語名	取扱説明書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した取扱説明書オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは取扱説明書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		施設コード※3)	施設コードの記入は任意扱いとするため、施設コードが発生しない場合は「Z」を記入する。 施設コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	17	□	◎
		機器コード※3)	機器コードの記入は任意扱いとするため、機器コードが発生しない場合は「ZZ」を記入する。 機器コードを記入する場合は、「電子納品要領(案)機械設備工事編 施設機器コード」の付属資料 3 による。	半角英数字	14	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で取扱説明書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で取扱説明書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG			ソフトウェアメカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

※1) 取扱説明書情報以下は、取扱説明書情報の数分を複数繰り返し登録する。

※2) ファイル情報は、ファイル情報の数分を複数繰り返し登録する。

※3) 施設コード及び機器コードは、施設コード及び機器コードの数分を複数繰り返し登録する。

【記入者】□：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

【解説】

- ・ 取扱説明書管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 取扱説明書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。

4-10 施工計画書管理項目

電子成果物に格納する施工計画書管理ファイル（PLAN.XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-10 施工計画書管理項目

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
施 工 計 画 書 情 報 ※	シリアル番号	施工計画書の通し番号を記入する。提出時の電子媒体を通して、一連のまとまった施工計画書について、やむを得ない理由である場合は、中抜けしてもよい。 12 番目を、“00012”の様に 0 を付けて表現してはいけない。	半角数字	5	□	◎	
	施工計画書名称	施工計画書の標題を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎	
	オリジナルファイル情報※	施工計画書オリジナルファイル名	施工計画書の文書、図面等のオリジナルファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	13	▲	◎
		施工計画書オリジナルファイル日本語名	施工計画書ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		施工計画書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報	格納した施工計画書オリジナルファイルの作成ソフトウェア名とバージョン情報を記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは施工計画書オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	◎
	その他	受注者説明文	受注者側で施工計画書に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		発注者説明文	発注者側で施工計画書に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	□	△
		予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	□	△
ソフトウェア用 TAG		ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】☐：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。原則として空欄。特記すべき事項があれば記入する。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- ・ 施工計画書管理項目は、ルート直下の施工計画書フォルダに格納する電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 施工計画書管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ 文書中に組み込む図、表、写真のオリジナルファイルの提出は不要である。オリジナルファイルの形式については監督職員と協議する。

4-11 打合せ簿管理項目

電子成果物に格納する打合せ簿管理ファイル（MEET. XML）に記入する管理項目は、下表に示す通りである。

表 4-11 打合せ簿管理項目（1/2）

分類・項目名		記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
打 合 せ 簿 情 報 ※	シリアル番号		打合せ簿の通し番号を記入する。連番を原則とするが、やむを得ない理由である場合は中抜け(欠番)してもよい。12 番目を、“00012”の様に 0 を付けて表現してはいけない。	半角数字	5	☐	◎
		上位打合せ簿 シリアル番号	当該打合せ簿が派生した上位にあたる打合せ簿のシリアル番号を記入する。(本項目はシリアル番号の属性として保持) 例)シリアル番号「20」の打合せ簿の上位にシリアル番号「5」の打合せ簿が該当する場合は、「5」と記入する。	半角英数字	15	☐	○
		下位打合せ簿 シリアル番号	当該打合せ簿から派生した下位にあたる打合せ簿のシリアル番号を記入する。(本項目はシリアル番号の属性として保持) 例)シリアル番号「5」の打合せ簿の下位にシリアル番号「20」の打合せ簿が該当する場合は、「20」と記入する。	半角英数字	15	☐	○
	工事帳票種類		「打合せ簿」「工事履行報告書」「施工段階確認簿」の工事帳票の鑑の種類を記入する。	全角文字 半角英数字	16	☐	◎
	打合せ簿種類		発議事項を記入する。 (「指示」「承諾」「協議」「提出」「報告」「通知」「確認」「立会」「その他」)	全角文字 半角英数字	16	☐	◎
	打合せ簿名称		打合せ簿の標題もしくは打合せ簿の内容を簡潔に記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	◎
	管理区分		「施工計画」「施工体制」「施工管理」「安全管理」「工程管理」「出来形管理」「品質管理」「契約変更」「その他」等の管理区分を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	◎
	関連資料	図面ファイル名	関連する図面がある場合は、図面管理項目の[図面ファイル名]を記入する。(複数記入可)	半角英数大文字	12 固定	☐	△
		シリアル番号	関連する写真がある場合は、写真管理項目の[シリアル番号]を記入する。(複数記入可)	半角数字	7	☐	△
	作成者		打合せ簿の作成者を記入する。 (受注者:現場代理人、主任技術者 等) (発注者:監督員 等)	全角文字 半角英数字	127	☐	◎
	提出先		打合せ簿の提出先(発注者、受注者)を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	◎

表 4-11 打合せ簿管理項目 (2/2)

分類・項目名			記入内容	データ表現	文字数	記入者	必要度	
	発行日付		発行元が打合せ簿を発行した年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成 22 年 4 月 1 日 → 2010-04-01	半角数字 － (HYPHEN-MINUS)	10 固定	☐	◎	
	受理日付		提出先担当者(受注者:現場代理人、主任技術者等、発注者:監督員等)が打合せ簿を受理した年月日を CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成 22 年 4 月 20 日 → 2010-04-20	半角数字 － (HYPHEN-MINUS)	10 固定	☐	◎	
	完了日付		発注者又は受注者が処理・回答した年月日がある場合は CCYY-MM-DD 方式で記入する。月または日が 1 桁の数の場合「0」を付加して、必ず 10 桁で記入する。(CCYY:西暦の年数、MM:月、DD:日) 例)平成 22 年 6 月 9 日 → 2010-06-09	半角数字 － (HYPHEN-MINUS)	10 固定	☐	○	
打 合 せ 簿 情 報 ※	オリジナルファイル情報※	打合せ簿オリジナルファイル名	打合せ簿のファイル名を拡張子を含めて記入する。	半角英数大文字	13	▲	◎	
		打合せ簿オリジナルファイル日本語名	打合せ簿ファイルに関する日本語名を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	△	
		工種区分※	工種	工種以下の分類が明確で記入可能であれば、工事積算体系の B-1 レベル「工種」を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	○
			種別	工種以下の分類が明確で記入可能であれば、工事積算体系の B-2 レベル「種別」を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	○
			細別	工種以下の分類が明確で記入可能であれば、工事積算体系の B-3 レベル「細別」を記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	○
		打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	格納した打合せ簿オリジナルファイルを作成したソフトウェア名とバージョンを記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	◎	
		オリジナルファイル内容	オリジナルファイルの内容、もしくは打合せ簿オリジナルファイルに記載されている内容を簡潔にを記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	◎	
	その他	受注者説明文	受注者側で打合せ簿に関して特記すべき事項がある場合は記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	△	
		発注者説明文	発注者側で打合せ簿に関して特記すべき事項がある場合(発注者から指示を受けた場合)は記入する。	全角文字 半角英数字	127	☐	△	
		予備	電子化が困難等の理由により発注者と受注者で協議した結果、紙で納品する添付資料がある場合は資料名を記入する。説明文以外で特記すべき事項があれば記入する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	☐	△	
ソフトメーカ用 TAG			ソフトウェアメーカが管理のために使用する。(複数記入可)	全角文字 半角英数字	127	▲	△	

全角文字と半角英数字が混在している項目については、全角の文字数を示しており、半角

英数字 2 文字で全角文字 1 文字に相当する。表に示している文字数以内で記入する。

【記入者】□：電子成果物作成者が記入する項目。

▲：電子成果物作成ソフト等が固定値を自動的に記入する項目。

【必要度】◎：必須記入。

○：条件付き必須記入。（データが分かる場合は必ず記入する）

△：任意記入。

※複数ある場合にはこの項を必要な回数繰り返す。

【解説】

- ・ 打合せ簿管理項目は、電子成果物の電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 打合せ簿管理項目は、ルート直下の打合せ簿フォルダに格納する電子データファイルを検索、参照、再利用していくための属性項目である。
- ・ 打合せ簿管理項目のデータ表現の定義は、「8-2 使用文字」に従う。
- ・ 付属資料 1 に管理ファイルの DTD、付属資料 2 に管理ファイルの XML 記入例を示す。
- ・ 施工中に授受する打合せ簿には、協議に対する回答として、別途指示を出すといったように、主従・継承関係を持っている場合がある。これらの関係がある場合は、「シリアル番号」の項目の属性情報として定義している「上位・下位打合せ簿シリアル番号」に関連する打合せ簿の「シリアル番号」を記入する。
- ・ 打合せ簿に関連する CAD 図面と工事写真がある場合は「関連資料」を記入する。
- ・ 関連する CAD 図面がある場合は、図面管理項目を参照して「図面ファイル名」を記入する。関連する写真がある場合は、写真管理項目を参照して「シリアル番号」を記入する。
- ・ 工事履行報告書は、「打合せ簿種類」に「提出」、「管理区分」に「工程管理」と記載する。
- ・ 施工段階確認簿は、「打合せ簿種類」に「確認」、「管理区分」に「施工管理」と記載する。
- ・ 「管理区分」及び「工種区分」の項目は、打合せ簿（鑑）のオリジナルファイルを管理区分及び工種区分に分類する場合に記入する。また、打合せ簿（鑑）に添付した工事帳票のオリジナルファイルを工種区分に分類する場合、各工事帳票の該当する「工種区分」を記入する。管理区分ごとに工種区分（工種、種別、細別）の記入可否は異なる。管理区分ごとの記入可否の目安は、以下のとおりである。

表 4-12 工種区分の記入可否の目安

管理区分	工種区分		
	工 種	種 別	細 別
施工計画	×	×	×
施工体制	×	×	×
施工管理	△	△	△
安全管理	△	×	×
工程管理	×	×	×
出来形管理	○	△	△
品質管理	○	△	△
契約変更	△	△	△
その他	△	△	△

(○:記入、△:記入可能な場合は記入、×:記入は不要とするが、任意の記入も可)

- ・ 打合せ簿管理項目のオリジナルファイル情報は、1 つの打合せ簿に使用されたオリジナルファイルを繰り返し登録する。

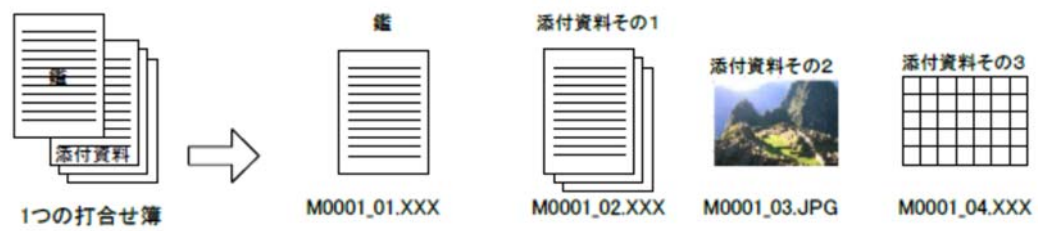


図 4-2 オリジナルファイル情報の登録

- ・ 文書中に組み込む図、表、写真のオリジナルファイルの提出は不要である。オリジナルファイルの形式については監督職員と協議する。

5 ファイル形式

発注者が貸与する発注図の電子データのファイル形式は、以下のとおりとする。

- ・ 図面管理ファイルは「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」に準じる。
- ・ 発注図ファイルのファイル形式は「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」に準じる。
- ・ 図面管理ファイルのスタイルシートの作成は任意とするが、作成する場合は XSL に準じる。

電子成果物のファイル形式は、以下のとおりとする。

- ・ 工事管理ファイル、施工図面・完成図ファイル、台帳管理ファイル、その他管理ファイルのファイル形式は XML 形式(XML1.0 に準拠)とする。
- ・ 図面管理ファイルは「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」、地質情報管理ファイルは「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」に準じる。
- ・ 施工図面・完成図ファイルのファイル形式は「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」に準じる。
- ・ 完成図書フォルダの各サブフォルダに格納するファイルのファイル形式は PDF 形式とする。
- ・ 台帳フォルダに格納する台帳ファイルのファイル形式は XML 形式とする。
- ・ 台帳オリジナルファイルを作成するソフト及びファイル形式は、監督職員と協議の上決定する。
- ・ 地質・土質調査データのファイル形式は「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」に準じる。
- ・ 各管理ファイルのスタイルシートの作成は任意とするが、作成する場合は XSL に準じる。

情報共有システムから工事帳票を出力する場合のファイル形式は、以下のとおりとする。

- ・ 工事管理ファイル、施工計画書管理ファイル、打合せ簿管理ファイル、その他管理ファイルのファイル形式は XML 形式(XML1.0 に準拠)とする。
- ・ 施工計画書オリジナルファイルを作成するソフト及びファイル形式は、監督職員と協議の上決定する。
- ・ 打合せ簿オリジナルファイルを作成するソフト及びファイル形式は、監督職員と協議の上決定する。
- ・ 各管理ファイルのスタイルシートの作成は任意とするが、作成する場合は XSL に準じる。

デジタルカメラで撮影した工事写真を提出する場合のファイル形式は、以下のとおりとする。

- ・ 工事管理ファイル、写真管理ファイルのファイル形式は XML 形式(XML1.0 に準拠)とする。
- ・ 写真ファイルのファイル形式は「電子化写真データの作成要領（案）」に準じる。
- ・ 写真管理ファイルのスタイルシートの作成は任意とするが、作成する場合は XSL に準じる。

【解説】

- ・ 工事管理ファイル及び各管理ファイルのファイル形式は XML 形式とする。
- ・ 台帳、施工計画書、打合せ簿のオリジナルファイルとして登録される図面等については、必ずしも「電子化図面データの作成要領（案）機械設備工事編」に従う必要はない。
- ・ 施工図面・完成図フォルダに格納する電子データのファイル形式の詳細は、付属資料 3 に従う。
- ・ 各管理ファイルの閲覧性を高めるため、スタイルシートを用いてもよいが、XSLに準じて作成する。スタイルシートを作成した場合は、各管理ファイルと同じ場所に格納する。
- ・ ファイル間でリンクや階層を持った資料など、本要領（案）によりがたい場合は、ファイルを圧縮して、該当するフォルダに格納する。圧縮ファイル形式は監督職員と協議し、決定する。
- ・ 発注者と受注者協議により、オリジナルファイルから変換したPDFファイルも格納可とする。
- ・ データを変換して作成したファイルを納品する場合は、「オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報」へは変換ソフト名を記入する。

6 ファイルの命名規則

電子成果物のファイルの命名規則は、以下のとおりとする。

- ・ ファイル名・拡張子は、半角英数大文字とする。
- ・ ファイル名 8 文字以内、拡張子 3 文字以内とする。各オリジナルファイルの拡張子は、4 文字でもよい。
- ・ 工事管理ファイルは「INDEX_MC.XML」とし、工事管理ファイルの DTD は「IND_MC03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・ 各管理ファイルのスタイルシートのファイル名は、「INDE_MC03.XSL」、「REG_M01.XSL」、「OTHR03.XSL」とする。
- ・ 台帳管理ファイルは「REGIST_M.XML」とし、DTD は「REG_M01.DTD」（01 は版番号）とする。
- ・ 台帳オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。
なお、別に作成要領（案）等で規定されている場合は、それに従うものとする。

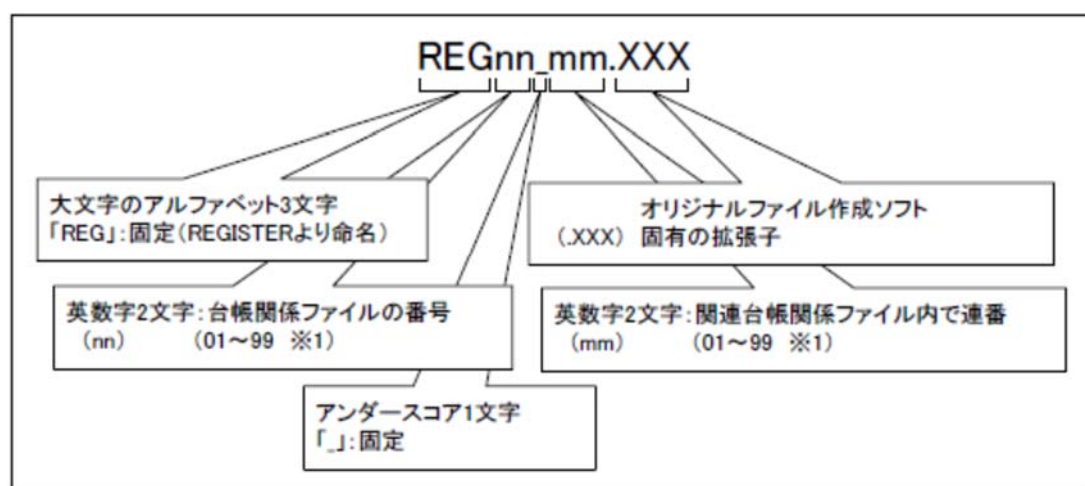


図 6-1 台帳オリジナルファイルの命名規則

- ・ その他管理ファイルは「OTHR.XML」とし、DTD は「OTHR03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・ 完成図書フォルダのサブフォルダに格納する管理ファイルは次のとおり。
 - *B 実施仕様書管理ファイルは「BS.XML」とし、DTD は「SPC03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - *B 計算書管理ファイルは「BC.XML」とし、DTD は「CHECK03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - *B 施工図管理ファイルは「BI.XML」とし、DTD は「INST03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - *B 機器図管理ファイルは「BD.XML」とし、DTD は「DEVICE03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - *B 施工管理記録書管理ファイルは「BE.XML」とし、DTD は「EXAM03.DTD」（03 は版番号）とする。
 - *B 取扱説明書管理ファイルは「BM.XML」とし、DTD は「MANUAL03.DTD」（03 は版番号）とする。

- 完成図書／B 実施仕様書ファイル

完成図書／B 実施仕様書フォルダに入れる B 実施仕様書ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

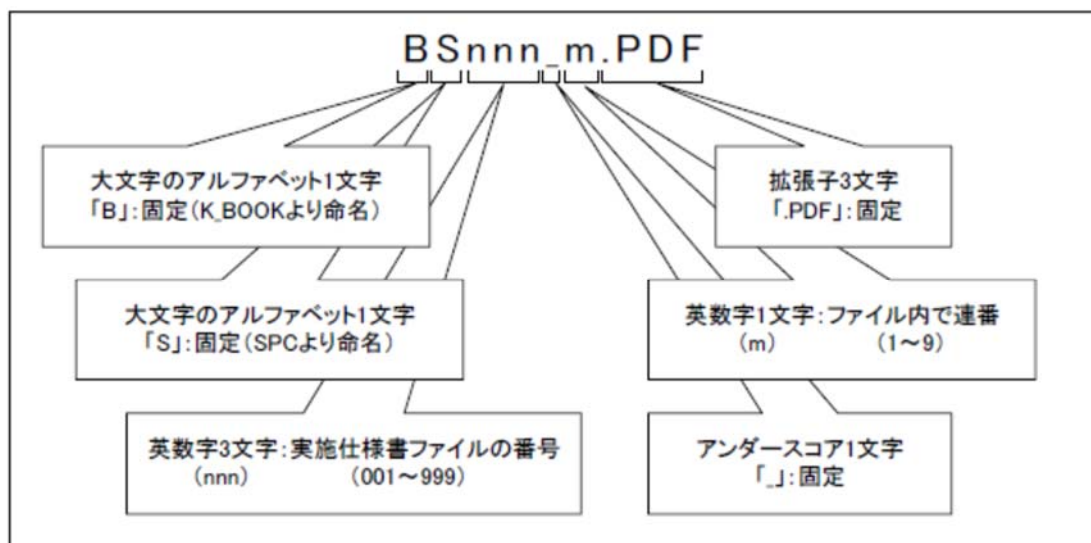


図 6-2 B 実施仕様書ファイルの命名規則

- 完成図書／B 計算書・検討書・数量表ファイル

完成図書／B 計算書フォルダに入れる B 計算書・検討書・数量表ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

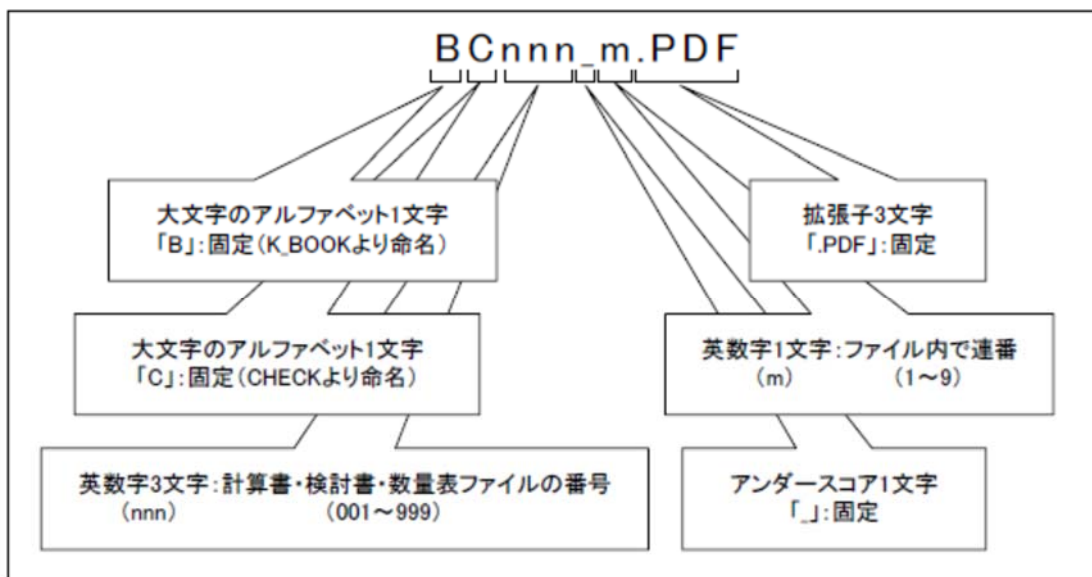


図 6-3 B 計算書・検討書・数量表ファイルの命名規則

- 完成図書／B 施工図ファイル

完成図書／B 施工図フォルダに入れる B 施工図ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

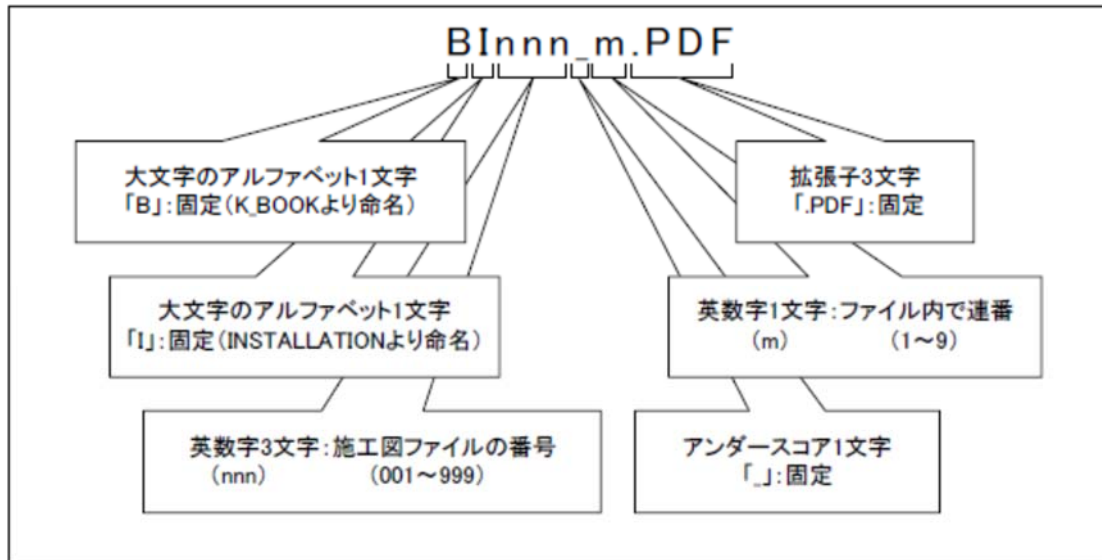


図 6-4 B 施工図ファイルの命名規則

- 完成図書／B 機器図ファイル

完成図書／B 機器図フォルダに入れる B 機器図ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

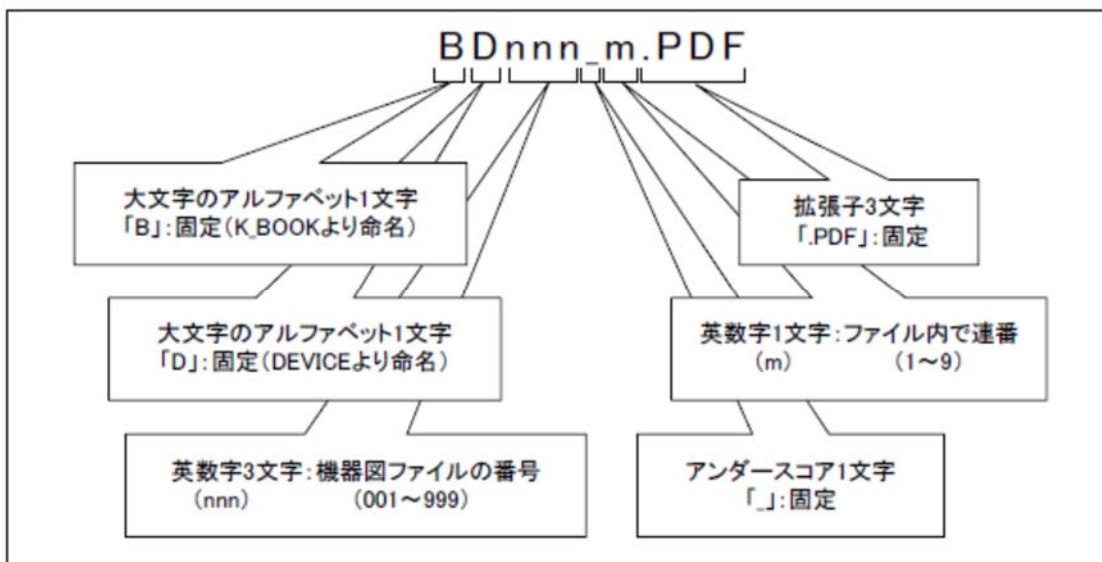


図 6-5 B 機器図ファイルの命名規則

- 完成図書／B 施工管理記録書ファイル

完成図書／B 施工管理記録書フォルダに入れる B 施工管理記録書（品質管理（試験成績書等）、出来形管理、工程管理）ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

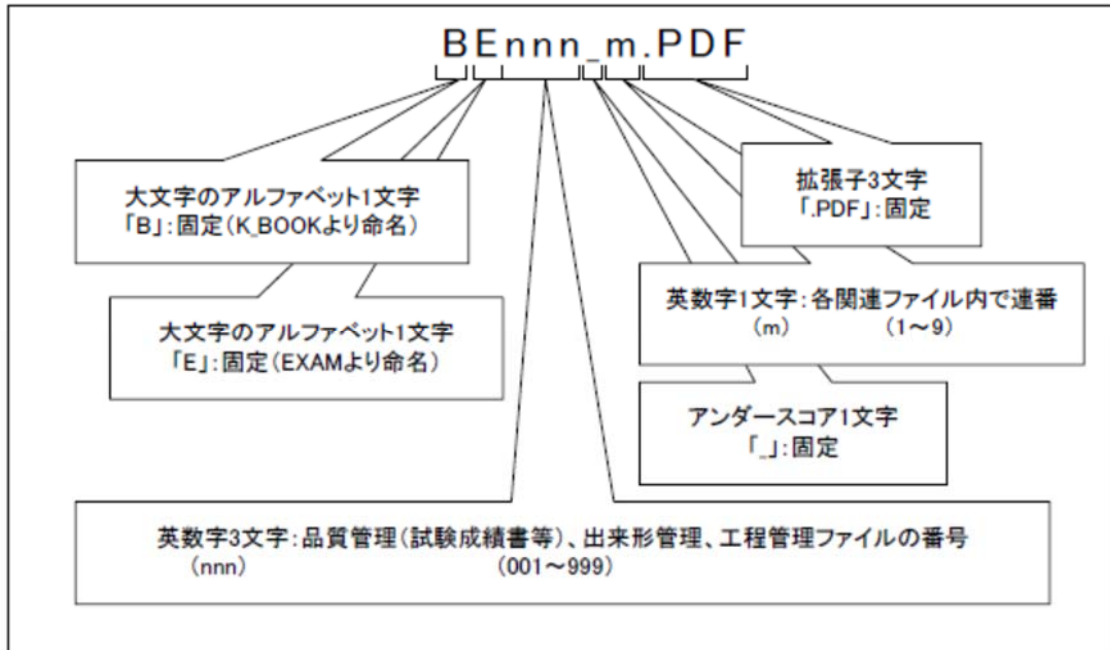


図 6-6 B 施工管理記録書ファイルの命名規則

- 完成図書／B 取扱説明書ファイル

完成図書／B 取扱説明書フォルダに入れる B 取扱説明書（全体設備取扱説明書、機器取扱説明書、サービス体制等）ファイルについては、以下の命名規則に従うものとする。

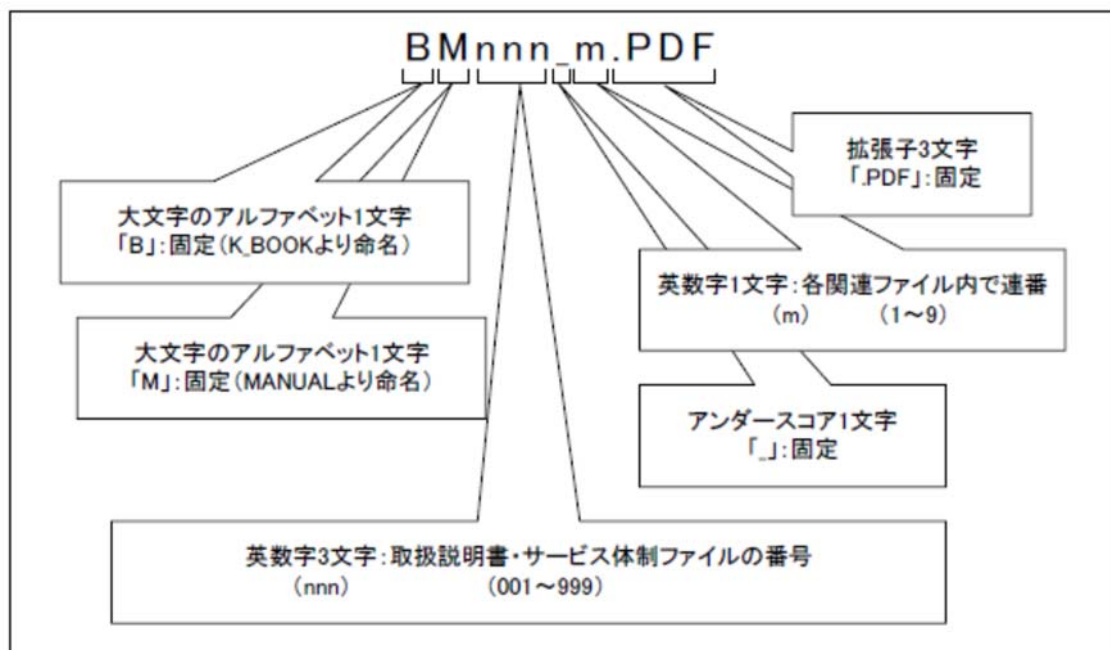


図 6-7 B 取扱説明書ファイルの命名規則

- ・ 施工計画書管理ファイルは「PLAN.XML」とし、DTD は「PLAN03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・ 施工計画書オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。

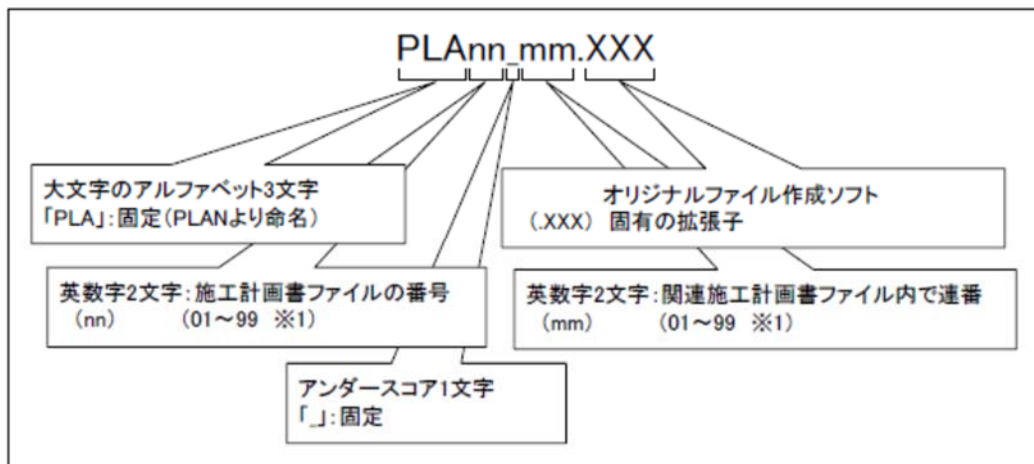


図 6-8 施工計画書ファイルの命名規則

- ・ 打合せ簿管理ファイルは「MEET.XML」とし、DTD は「MEET03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・ 打合せ簿オリジナルファイルの命名規則は次図の通り。

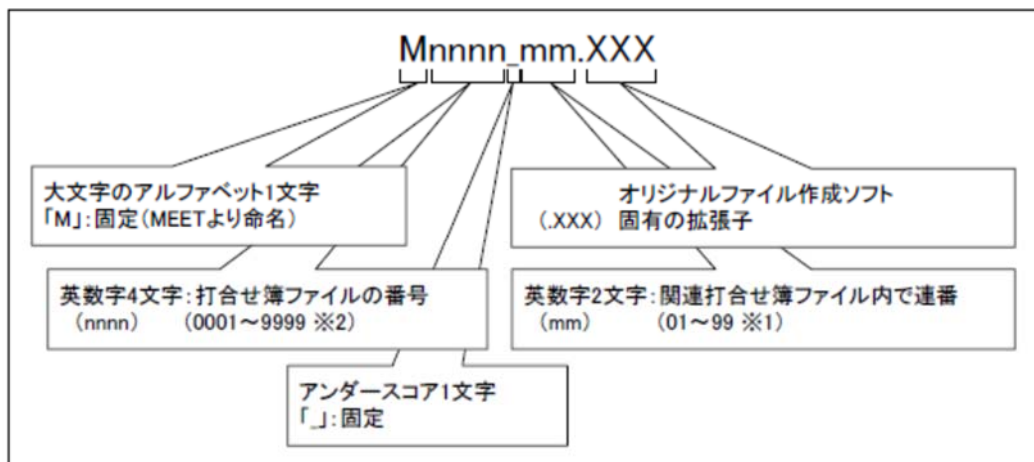


図 6-9 打合せ簿ファイルの命名規則

情報共有システムから工事帳票を出力する場合のファイルの命名規則は、以下のとおりとする。

- ・ ファイル名・拡張子は、半角英数大文字とする。
- ・ ファイル名 8 文字以内、拡張子 3 文字以内とする。各オリジナルファイルの拡張子は、4 文字でもよい。
- ・ 工事管理ファイルは「INDEX_MC.XML」とし、工事管理ファイルの DTD は「IND_MC03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・ その他管理ファイルは「OTHR.XML」とし、DTD は「OTHR03.DTD」（03 は版番号）とする。
- ・ 各管理ファイルのスタイルシートのファイル名は、「IND_MC03.XSL」、「PLAN03.XSL」、「MEET03.XSL」、「OTHR03.XSL」とする。

【解説】

(1) 共通規則

- ・ ファイル名の文字数は、半角(1 バイト文字)で 8 文字以内、拡張子 3 文字以内とする。各オリジナルファイルの拡張子は、オリジナルファイル作成ソフト固有の拡張子とし、文字数は 4 文字でもよい。ファイル名に使用する文字は、半角(1 バイト文字)で、大文字のアルファベット「A～Z」、数字「0～9」、アンダースコア「_」とする。
- ・ オリジナルファイルの通し番号は、工事の経緯がわかるように日付昇順に付番号することを基本とする。
- ・ 「ORGnnn」サブフォルダに格納するファイル名は、上記の規則に準じ、監督職員と協議する。

(2) オリジナルファイル

1 つの文書に対し、オリジナルファイルが複数存在する場合がある。この場合、ファイル名から内容が想定できるように、ファイル名の付け方を規定し、01 からの連番により、ファイルを区別することを基本とするが、欠番があってもかまわない。

例) ワープロソフトファイル : M0001_01. XXX

ワープロソフトファイル : M0001_02. XXX

表計算ソフトファイル : M0001_03. XXX

(3) 連番の扱い

(※1 について)

連番が 100 を超える場合は、以下のようにアルファベットを用いる。

例) 100～109 の場合…A0～A9 110～119 の場合…B0～B9

120～129 の場合…C0～C9

(※2 について)

連番が 9999 を超える場合は、以下のようにアルファベットを用いる。

例) 10000～10999 の場合…A000～A999

11000～11999 の場合…B000～B999

12000～12999 の場合…C000～C999

7 電子成果物

7-1 電子成果物

電子成果物へ格納された情報は、次の条件を満たさなければならない。

- 1 情報の真正性が確保されていること。
- 2 情報の見読性が確保されていること。
- 3 情報の保存性が確保されていること。

【解説】

- ・ 電子成果物が第三者により書き換えられないようにするため、電子成果物には、真正性、見読性及び保存性を確保する必要がある。
- ・ 真正性の確保とは、正当な人が作成した電子成果物の情報(文書、図面等)に対して第三者の確認により作成の責任と所在が明確であるとともに、故意または過失による虚偽記入、書き換え、消去等が防止されていることである。
- ・ 見読性の確保とは、電子成果物の情報(文書、図面等)を必要・目的に応じてパソコン等電子機器を用いて速やかに確認可能な状態を確保することである。
- ・ 保存性の確保とは、電子成果物の情報(文書、図面等)が、規程で定められた期間において真正性を見読性を満足した状態で保存することである。
- ・ 上記の 3 条件を満たす電子的な情報の手段として、CD-R または DVD-R(一度しか書き込みができないもの)の使用による納品を原則とする。
- ・ データが大容量になる場合には、協議により BD-R の使用を可とする。
- ・ 基本的には、1 枚の電子媒体に情報を格納する。
- ・ 複数枚の電子媒体になる場合は、「7-3 媒体が複数に渡る場合の処置」に従う。
- ・ CD-R の論理フォーマットは、Joliet を原則とする。
- ・ DVD-R にデータを記録する(パソコンを使って記録する)際のファイルシステムの論理フォーマットは、UDF (UDF Bridge) とする。
- ・ BD-R にデータを記録する(パソコンを使って記録する)際のファイルシステムの論理フォーマットは、UDF2.6 とする。

7-2 電子媒体の表記規則

- ・電子媒体には、「案件番号」、「工事名称」、「作成年月」、「発注者名」、「受注者名」、「何枚目／全体枚数」、「ウイルスチェックに関する情報」、「フォーマット形式」、「総括監督員」、「現場代理人」を明記する。
- ・電子媒体を収納するケースの背表紙には、「工事名称」、「作成年月」を横書きで明記する。

【解説】



図 7-1 電子媒体への表記例

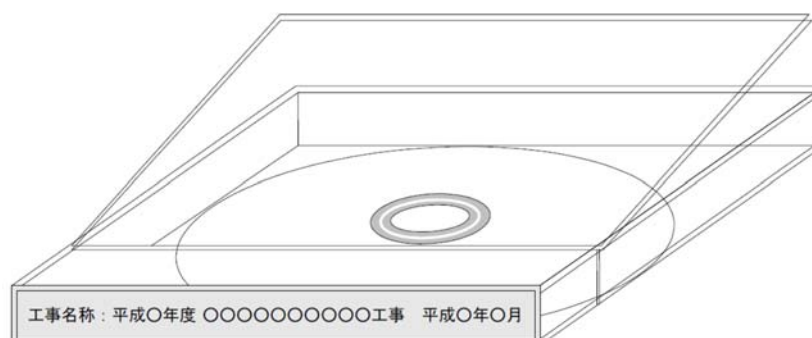


図 7-2 電子媒体ケースへの表記例

- ・電子媒体には、必要項目を表面に直接印刷、または油性フェルトペンで表記し、表面に損傷を与えないよう注意する。

- ・ シールによっては温湿度の変化で伸縮し、電子媒体に損傷を与えることがあるため、シールは使用しない。
- ・ 総括監督員欄及び現場代理人欄は、総括監督員及び現場代理人双方が、油性フェルトペンにて記述する。
- ・ 「ウイルスチェックに関する情報」は、使用した「ウイルス対策ソフト名」「ウイルス定義年月日」もしくは「パターンファイル名」、「チェック年月日」を明記する。ウイルス対策の詳細は「8-1 ウイルス対策」に示す。
- ・ プラスチックケースのラベルの背表紙には、以下の例のように記載する。工事名が長く書ききれない場合は、頭から書けるところまで記入する。
例： 平成○年度 ○○○○○○○○○○○○○○○○○工事 ○○○○年○月
 (長い場合) 平成○年度 ○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○年○月

7-3 電子媒体が複数枚に渡る場合の処置

- ・ 電子成果物は、原則 1 枚の電子媒体に格納する。
- ・ データが容量的に 1 枚の電子媒体に納まらず複数枚になる場合は、同一の工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) を各電子媒体のルート直下に格納する。ただし、基礎情報の「メディア番号」には該当する番号を記入する。
- ・ 各フォルダにおいても同様に、同一の管理ファイルを各電子媒体に格納する。
- ・ 工事管理ファイルの基礎情報の「メディア番号」は、ラベルに明記してある何枚目／全体枚数と整合を取る。

8 その他留意事項

8-1 ウイルス対策

- ・受注者は、電子成果物が完成した時点で、ウイルスチェックを行う。
- ・ウイルス対策ソフトは特に指定はしないが、信頼性の高いものを利用する。
- ・最新のウイルスも検出できるように、ウイルス対策ソフトは常に最新のデータに更新（アップデート）したものを利用する。
- ・電子媒体の表面には、「使用したウイルス対策ソフト名」、「ウイルス（パターンファイル）定義年月日またはパターンファイル名」、「チェック年月日（西暦表示）」を明記する。

8-2 使用文字

- ・本規定は、管理ファイル(XML 文書)を対象とする。
- ・使用できる半角文字は、JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字を除いたラテン文字用図形文字のみとする。
- ・使用できる全角文字は、JIS X 0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字のみとする。

【解説】

(1) 管理ファイルのデータ表現形式

使用文字の一般原則は上記の通りであり、管理ファイルでの文字の表現方法は、一般原則に従っている。以下に、管理ファイルでの文字の表現方法を解説する。

1) 全角文字

管理ファイルのデータ表現形式に示す「全角文字」とは、JIS X 0208 で規定されている文字から数字とラテン文字を除いた文字をいう。すなわち、全角文字には、漢字、数字、ラテン文字(a～z、A～Z)、ギリシャ文字、記号などがあるが、このうち全角の数字、ラテン文字は使用できない。全角文字を使用する項目では、必ず半角英数字も合わせて使用できるので、「平成 22 年」といったデータでは” 22”を半角文字とする。

2) 半角英数字

同じく「半角英数字」とは、JIS X 0201 で規定されている文字から片仮名用図形文字（半角カタカナ、日本語文で使用する半角の記号（句点(。)、カギ括弧「()」、「()」、読点(、)、中点(・)、濁点(ゝ)、半濁点(゜)））を除いた文字をいう。

3) 半角英数大文字

同じく「半角英数大文字」とは、「半角英数字」からラテン小文字(a～z)を除いた文字をいう。半角英数大文字を使用する項目は、フォルダ名やファイル名といった命名規則が決められている場合であるので、命名規則に従ってデータを入力する。

4) 半角数字

同じく「半角数字」とは、JIS X 0201 で規定されている文字のうち数字(0～9)及び小数点(.)をいう。

(2) 留意事項

機種依存文字（例えば、丸囲い数字、ローマ数字、(株)、No、kg、m²、地名や人名等の特殊漢字等）、利用者が独自に作成した外字等は、他の端末では表示できない場合もあるので使用しない。また、数字やラテン文字も全角、半角を混在して使用すると検索する上で問題となるため、数字やラテン文字は半角文字で統一する。

8-3 オリジナルファイルの電子化について

- ・図表等は、基本的には文書ファイルにリンクまたは貼り付けて管理する。
- ・貼り付けられた図表等は、管理ファイルで管理を行わず文書内容で図表等を判断できればよい。
- ・貼り付けていない図表等は文書ファイルと分離した形で管理ファイルにおいて管理する。なお、管理ファイルでは、図表等の位置（ページ数、図表番号等）を管理しない。

【解説】

オリジナルファイルに貼り付けられた図表は、管理ファイルによる管理を行わないとともに図表等の位置も管理しない。

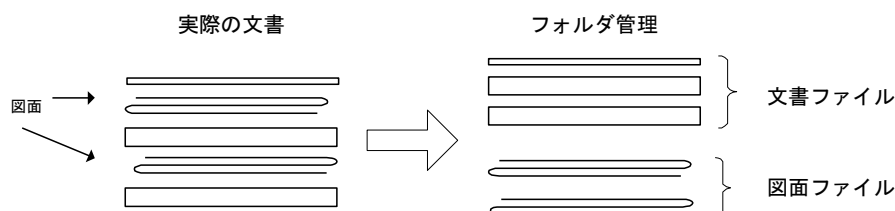


図 8-1 図表等の取り扱いイメージ

8-4 施工中に紙資料で交換・共有した書類の取り扱い

施工中に発注者と受注者間において紙資料で交換・共有した書類についても、原則として電子納品の対象とする。

【解説】

国営造成施設のライフサイクルを考慮し、施設の情報を長期間保存することが電子納品の基本的な考えの一つであるため、失われやすい紙媒体の情報ではなく電子媒体として保存すべきであるため、受注者が押印または署名した紙の書類の提出や、受注者が材料製造業者等から受け取った紙の書類を発注者に提出した場合など、施工中に発注者と受注者間で紙資料により交換・共有した書類についても原則として電子納品の対象とする。

詳細は、施設機械工事等共通仕様書に定める「施設機械工事等関係書類一覧表」を参照されたい。

- (1) 受注者が押印または署名した紙の書類
 - ・ 工事打合せ簿とその添付資料など
 - ・ 監督職員を通じて発注者に提出した書類（工事現場発生材報告書など）
- (2) 受注者が材料製造業者等から受け取った紙の書類
（原本でその有効性が確認できるもの）
 - ・ 鋼材検査証明書（ミルシート）など
 - ・ レディーミクストコンクリート製造業者の材料試験結果など

付属資料 1 管理ファイルの DTD

各管理ファイルの DTD を以下に示す。なお、DTD ファイルは、電子納品 Web サイト (http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/sonota.html) から取得できる。

1 工事管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体に格納する工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) の DTD (IND_MC03.DTD) を以下に示す。

```
<!--IND_MC03.DTD / 2012/12 -->
<!ELEMENT constdata (基礎情報, 工事件名等, 場所情報?, 発注者情報, 受注者情報, 予備*, ソフトメーカ用 TAG*)>
<!ATTLIST constdata DTD_version CDATA #FIXED "03">

<!-- 基礎情報 -->
<!ELEMENT 基礎情報 (メディア番号, メディア総枚数, 適用要領基準, 施工図面完成図フォルダ名?, 台帳フォルダ名?, 台帳オリジナルファイルフォルダ情報*, 地質データフォルダ名?, その他フォルダ名?, その他オリジナルファイルフォルダ情報*, 完成図書フォルダ名?, B 実施仕様書フォルダ名?, B 計算書フォルダ名?, B 施工図フォルダ名?, B 機器図フォルダ名?, B 施工管理記録書フォルダ名?, B 取扱説明書フォルダ名?, 写真フォルダ名?, 施工計画書フォルダ名?, 施工計画書オリジナルファイルフォルダ名?, 打合せ簿フォルダ名?, 打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名?)>

<!ELEMENT メディア番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT メディア総枚数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 適用要領基準 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工図面完成図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 台帳フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 台帳オリジナルファイルフォルダ情報 (台帳オリジナルファイルフォルダ名, 台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名)>
    <!ELEMENT 台帳オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT 台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 地質データフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ情報 (その他オリジナルファイルフォルダ名, その他オリジナルファイルフォルダ日本語名)>
    <!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
    <!ELEMENT その他オリジナルファイルフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 完成図書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 実施仕様書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 計算書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 施工図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 機器図フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 施工管理記録書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT B 取扱説明書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿フォルダ名 (#PCDATA)>
```

<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名 (#PCDATA)>

<!-- 工事件名等 -->

<!ELEMENT 工事件名等 (発注年度, 工事番号, 工事名称, 施工金額, 工事実績システム登録番号, 工事分野, 工事業種, 工種-工法型式+, 住所情報+, 工期開始日, 工期終了日, 工事内容)>

<!ELEMENT 発注年度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事番号 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事名称 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 施工金額 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事実績システム登録番号 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事分野 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事業種 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工期開始日 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工期終了日 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工事内容 (#PCDATA)>

<!-- 工種-工法型式 (工種+, 工法型式+) -->

<!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 工法型式 (#PCDATA)>

<!-- 住所情報 (住所コード+, 住所+) -->

<!ELEMENT 住所コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 住所 (#PCDATA)>

<!-- 場所情報 -->

<!ELEMENT 場所情報 (測地系?, 水系-路線情報*, 境界座標情報?)>

<!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>

<!-- 水系-路線情報 -->

<!ELEMENT 水系-路線情報 (対象水系路線名?, 現道-旧道区分?, 対象河川コード*, 左右岸上下線コード*, 測点情報*, 距離標情報*)>

<!ELEMENT 対象水系路線名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 現道-旧道区分 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 対象河川コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 左右岸上下線コード (#PCDATA)>

<!-- 測点情報 -->

<!ELEMENT 測点情報 (起点側測点-n?, 起点側測点-m?, 終点側測点-n?, 終点側測点-m?)>

<!ELEMENT 起点側測点-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 起点側測点-m (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側測点-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側測点-m (#PCDATA)>

<!-- 距離標情報 -->

<!ELEMENT 距離標情報 (起点側距離標-n?, 起点側距離標-m?, 終点側距離標-n?, 終点側距離標-m?)>

<!ELEMENT 起点側距離標-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 起点側距離標-m (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側距離標-n (#PCDATA)>

<!ELEMENT 終点側距離標-m (#PCDATA)>

<!-- 境界座標情報 -->

<!ELEMENT 境界座標情報 (西側境界座標経度, 東側境界座標経度, 北側境界座標緯度, 南側境界座標緯度)>

<!ELEMENT 西側境界座標経度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 東側境界座標経度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 北側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 南側境界座標緯度 (#PCDATA)>

<!-- 発注者情報 -->

<!ELEMENT 発注者情報 (発注者-大分類, 発注者-中分類, 発注者-小分類?, 発注者コード)>

<!ELEMENT 発注者-大分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者-中分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者-小分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者コード (#PCDATA)>

<!-- 受注者情報 -->

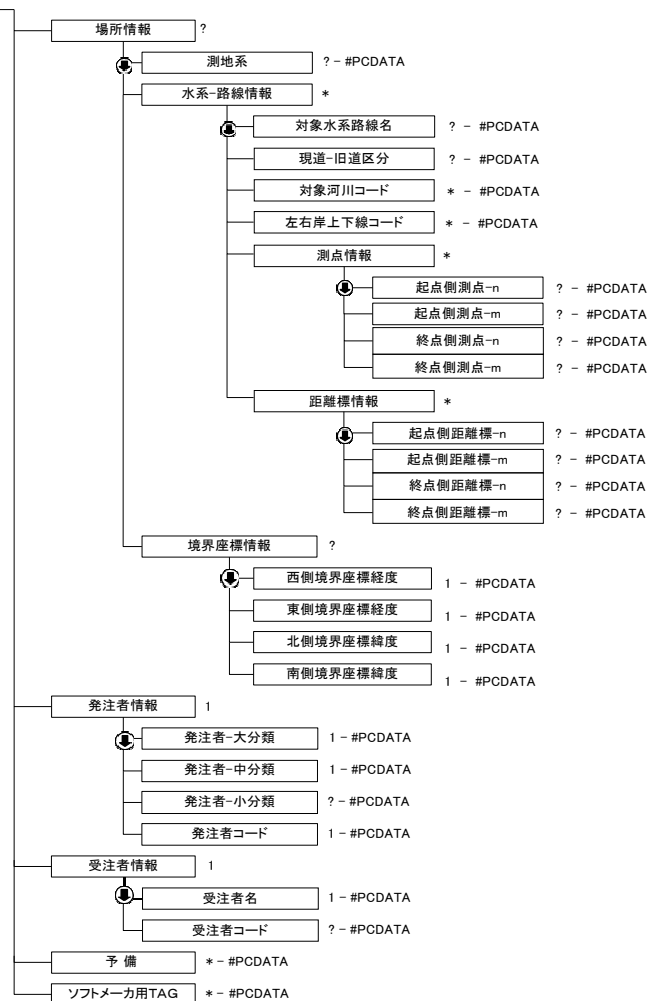
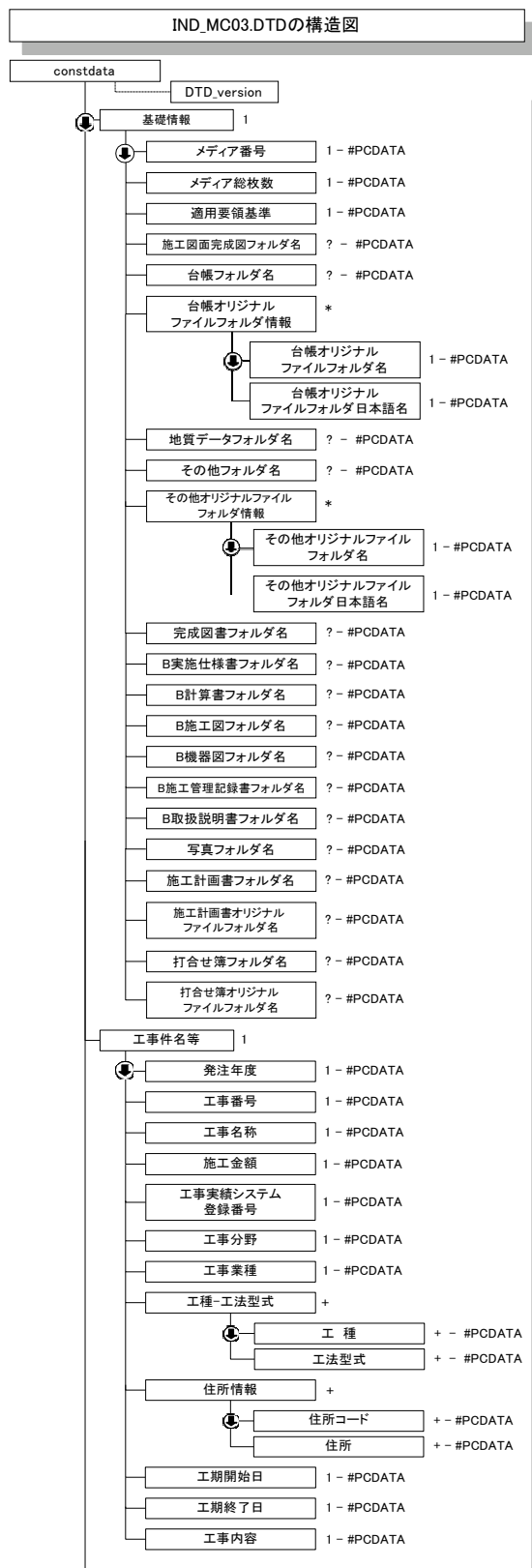
<!ELEMENT 受注者情報 (受注者名, 受注者コード?)>

<!ELEMENT 受注者名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 受注者コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>



① : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

2 台帳管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体に添付する台帳管理ファイル (REGIST_M.XML) の DTD (REG_M01.DTD) を以下に示す。

<!--REG_M01.DTD / 2012/12 -->

<!ELEMENT registerdata (ファイル情報, 台帳情報*, サブフォルダ情報*, ソフトメーカー用 TAG*)>

<!ATTLIST registerdata DTD_version CDATA #FIXED "01">

<!-- ファイル情報 -->

<!ELEMENT ファイル情報 (台帳種類+)>

<!ELEMENT 台帳種類 (#PCDATA)>

<!-- 台帳情報 -->

<!ELEMENT 台帳情報 (台帳名, 台帳オリジナルファイル情報+, 台帳その他?)>

<!ELEMENT 台帳名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳オリジナルファイル情報 (台帳オリジナルファイル名, 台帳オリジナルファイル日本語名?, 台帳オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, 台帳オリジナルファイル内容, 施設コード+)>

<!ELEMENT 台帳オリジナルファイル名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳その他 (台帳受注者説明文?, 台帳発注者説明文?, 台帳予備*)>

<!ELEMENT 台帳受注者説明文 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳発注者説明文 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳予備 (#PCDATA)>

<!-- サブフォルダ情報 -->

<!ELEMENT サブフォルダ情報 (台帳サブフォルダ名, 台帳サブフォルダ日本語名?, 資料情報*)>

<!ELEMENT 台帳サブフォルダ名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>

<!-- 資料情報 -->

<!ELEMENT 資料情報 (資料名, 台帳管理区分-大分類, 台帳管理区分-小分類, 資料オリジナルファイル情報*, 資料その他?)>

<!ELEMENT 資料名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳管理区分-大分類 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 台帳管理区分-小分類 (#PCDATA)>

<!-- ファイル情報 -->

<!ELEMENT 資料オリジナルファイル情報 (シリアル番号, 資料オリジナルファイル名, 資料オリジナルファイル日本語名?, 資料オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, 資料オリジナルファイル内容)>

<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 資料オリジナルファイル名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 資料オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 資料オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 資料オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!— その他 —>

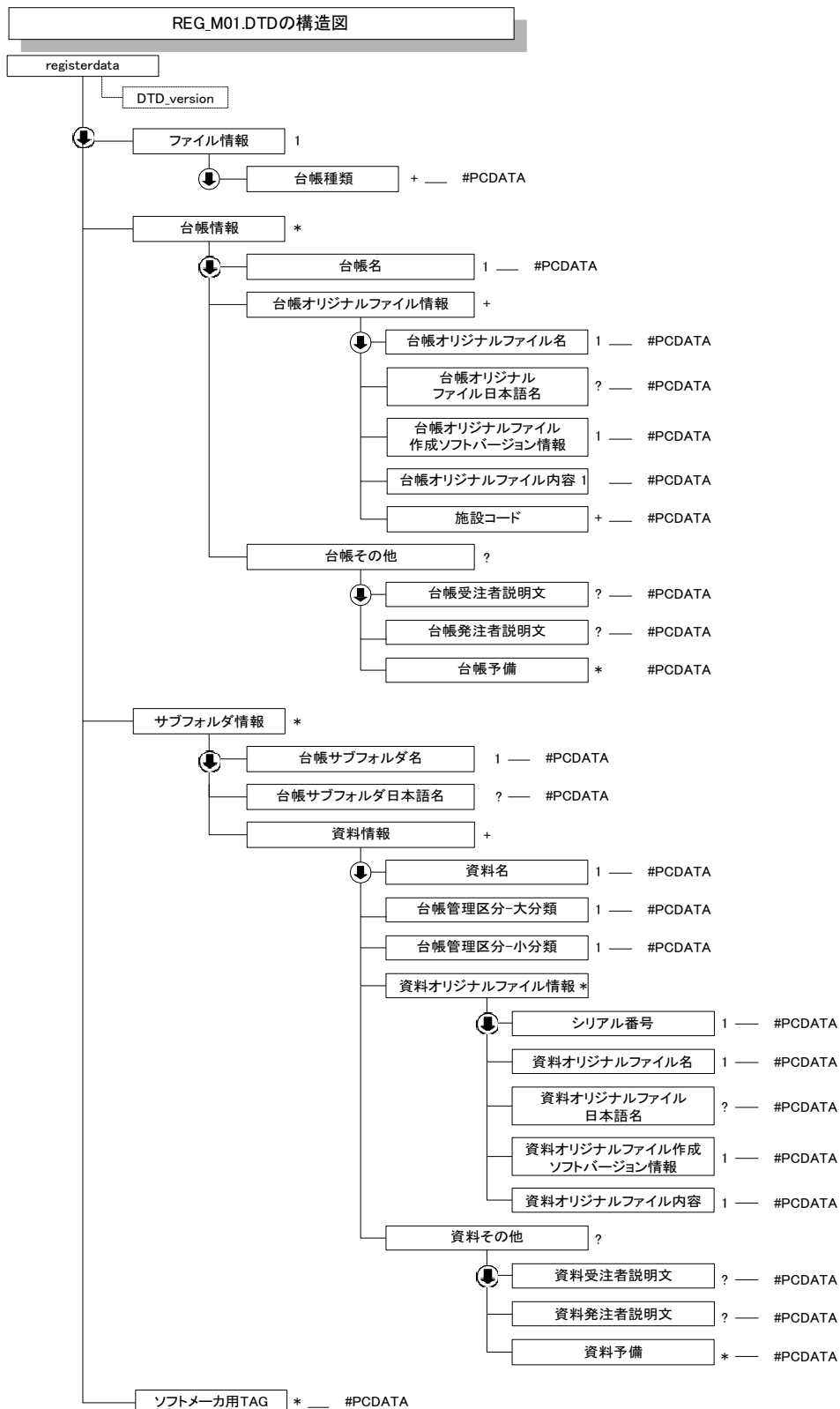
<!ELEMENT 資料その他 (資料受注者説明文?, 資料発注者説明文?, 資料予備*)>

<!ELEMENT 資料受注者説明文 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 資料発注者説明文 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 資料予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>



● : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

3 その他管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体に添付するその他管理ファイル（ OTHERS.XML ） の DTD（OTHERS03.DTD）を以下に示す。

<!--OTHERS03.DTD / 2012/12 -->

<!ELEMENT othrsdata (サブフォルダ情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>

<!ATTLIST othrsdata DTD_version CDATA #FIXED "03">

<!-- サブフォルダ情報 -->

<!ELEMENT サブフォルダ情報 (その他サブフォルダ名, その他サブフォルダ日本語名?, その他資料情報*)>

<!ELEMENT その他サブフォルダ名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT その他サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>

<!-- その他資料情報 -->

<!ELEMENT その他資料情報 (資料名, オリジナルファイル情報*, その他?)>

<!ELEMENT 資料名 (#PCDATA)>

<!-- オリジナルファイル情報 -->

<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (シリアル番号, オリジナルファイル名, オリジナルファイル日本語名?, オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容)>

<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>

<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!-- その他 -->

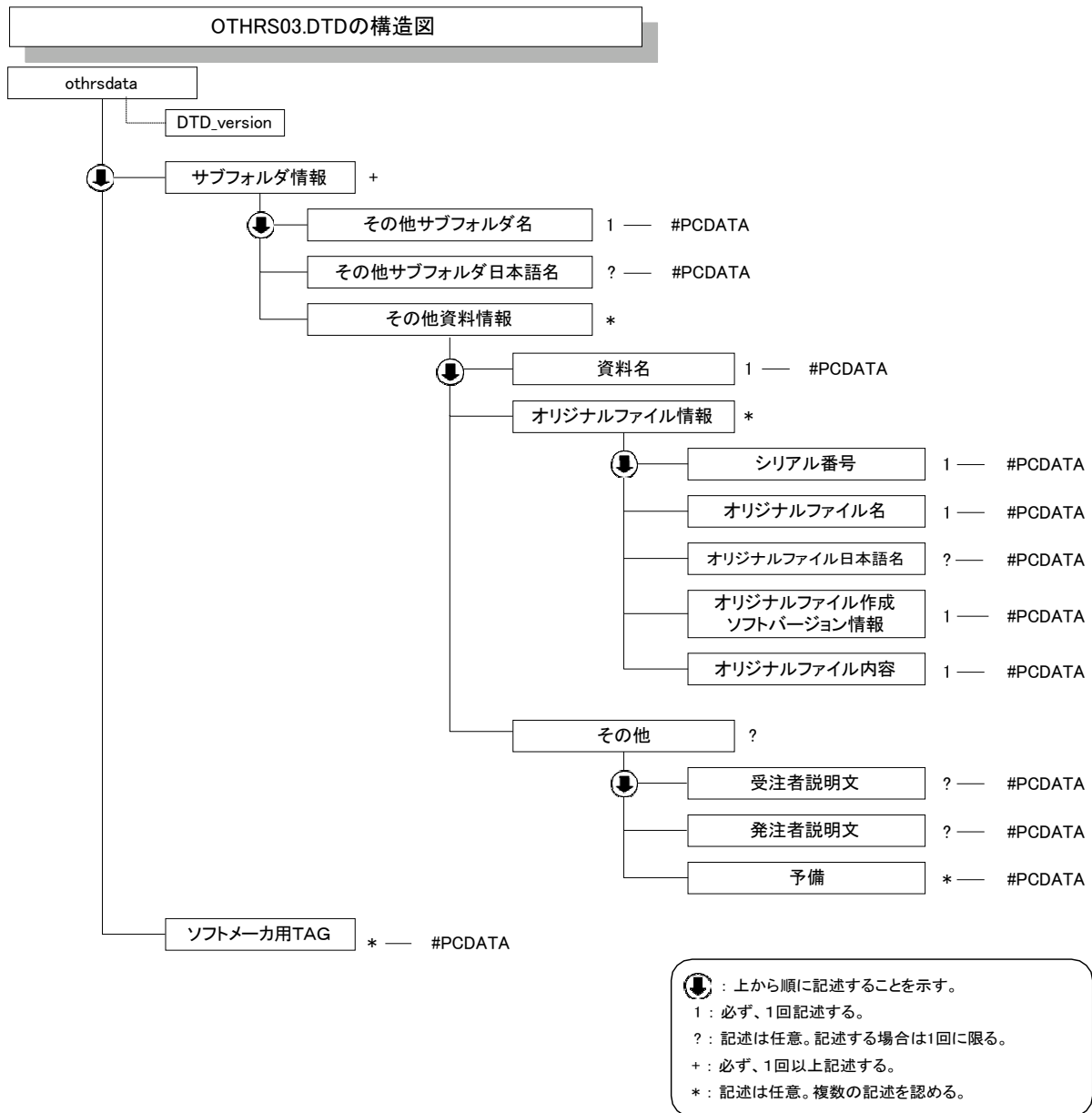
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>

<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>

<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>



4 B 実施仕様書管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する実施仕様書管理ファイル（BS. XML）の DTD（SPC03. DTD）を以下に示す。

```
<!--SPC03. DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT specdata (実施仕様書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST specdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書情報 (実施仕様書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (実施仕様書オリジナルファイル名, 実施仕様書オリジナルファイル日本語名?, 実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

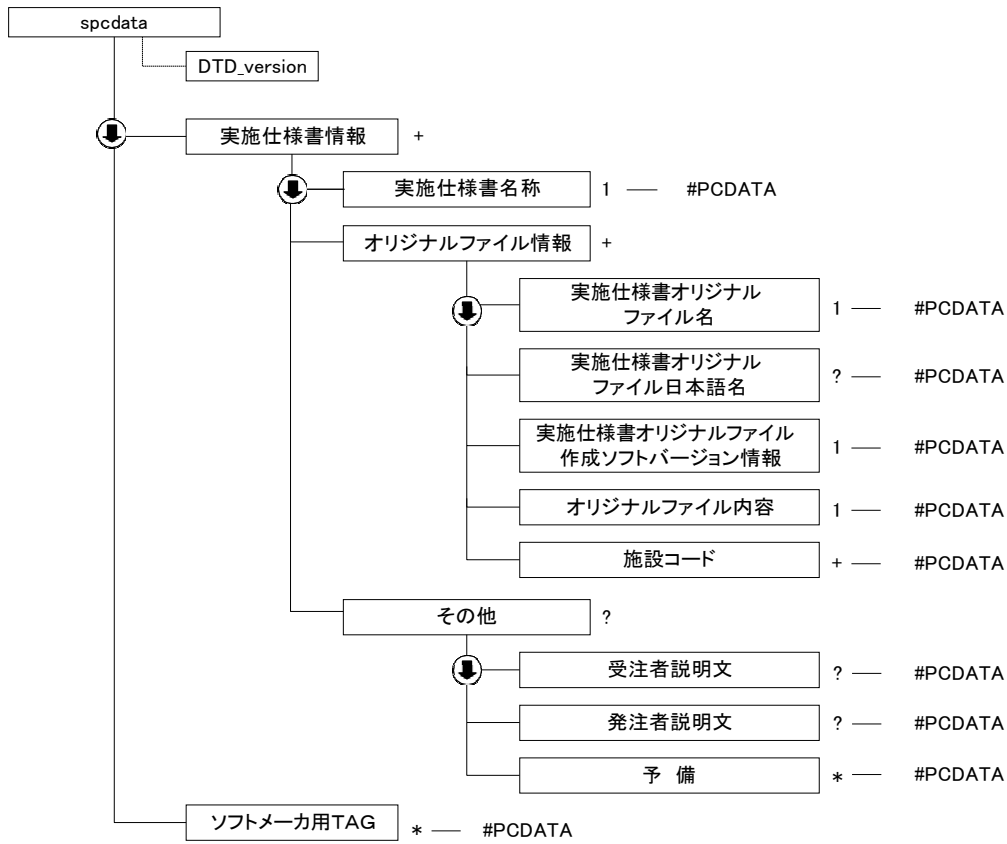
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

SPC03.DTDの構造図



- ↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

5 B 計算書管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する計算書管理ファイル（BC.XML）の DTD（CHECK03.DTD）を以下に示す。

```
<!--CHECK03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT checkdata (計算書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST checkdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 計算書情報 (計算書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 計算書名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (計算書オリジナルファイル名, 計算書オリジナルファイル日本語名?,  
計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+)>
```

```
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

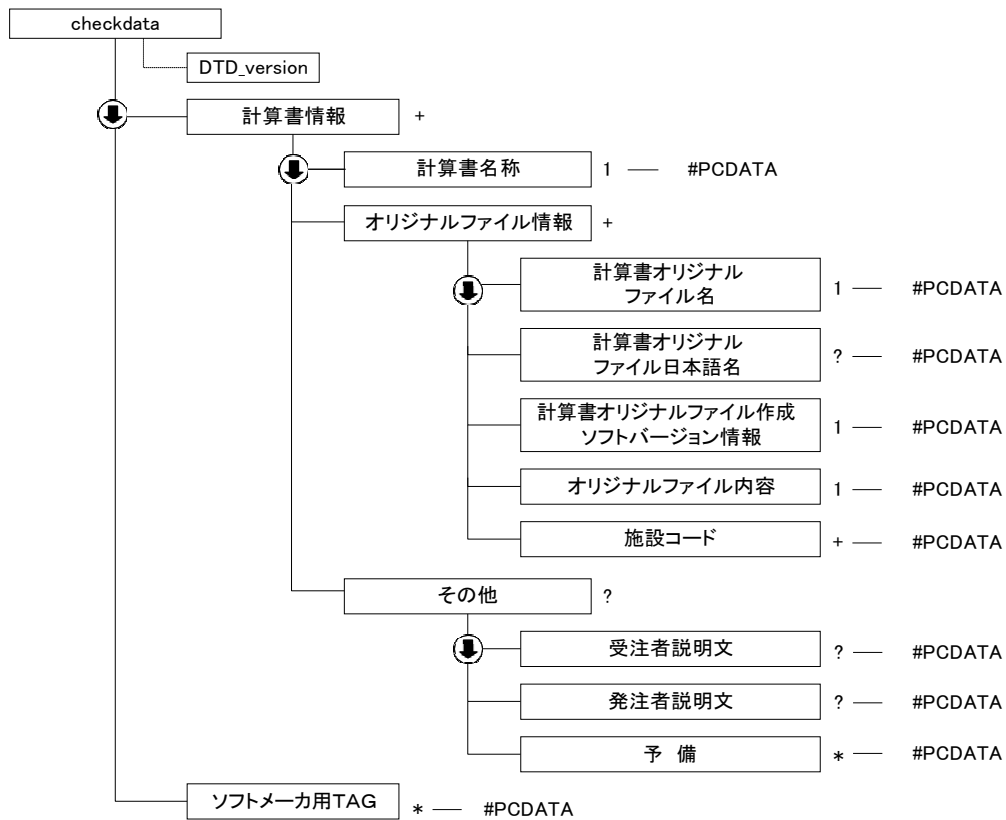
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

CHECK03.DTDの構造図



- : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

6 B 施工図管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する施工図管理ファイル（BI.XML）の DTD（INST03.DTD）を以下に示す。

```
<!--INST03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT instdata (施工図情報+, ソフトメーカ用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST instdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 施工図情報 (施工図名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 施工図名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工図オリジナルファイル名, 施工図オリジナルファイル日本語名?, 施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+)>
```

```
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

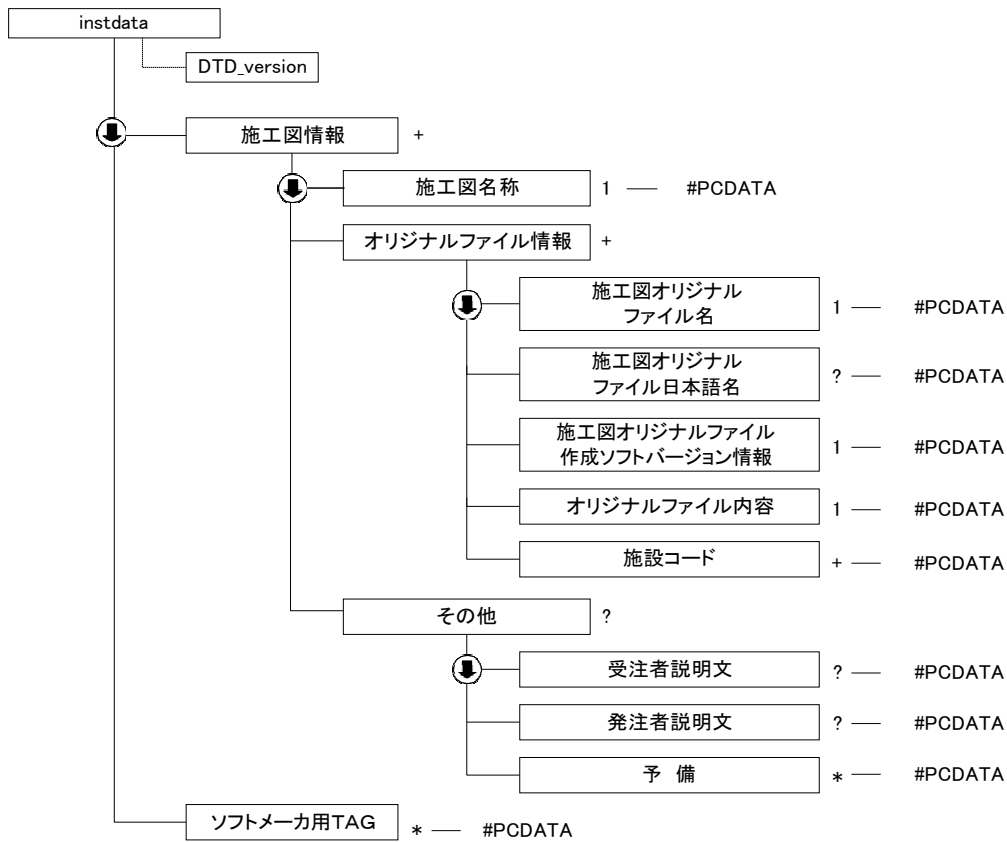
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカ用 TAG (#PCDATA)>
```

INST03.DTDの構造図



- : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

7 B 機器図管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する機器図管理ファイル（BD.XML）の DTD（DEVICE03.DTD）を以下に示す。

<!--DEVICE03.DTD / 2012/12 -->

<!ELEMENT devicedata（機器図情報+, ソフトメーカー用 TAG*）>

<!ATTLIST devicedata DTD_version CDATA #FIXED "03">

<!ELEMENT 機器図情報（機器図名称, オリジナルファイル情報+, その他?）>

<!ELEMENT 機器図名称（#PCDATA）>

<!ELEMENT オリジナルファイル情報（機器図オリジナルファイル名, 機器図オリジナルファイル日本語名?, 機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+, 機器コード+）>

<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル名（#PCDATA）>

<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル日本語名（#PCDATA）>

<!ELEMENT 機器図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報（#PCDATA）>

<!ELEMENT オリジナルファイル内容（#PCDATA）>

<!ELEMENT 施設コード（#PCDATA）>

<!ELEMENT 機器コード（#PCDATA）>

<!ELEMENT その他（受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*）>

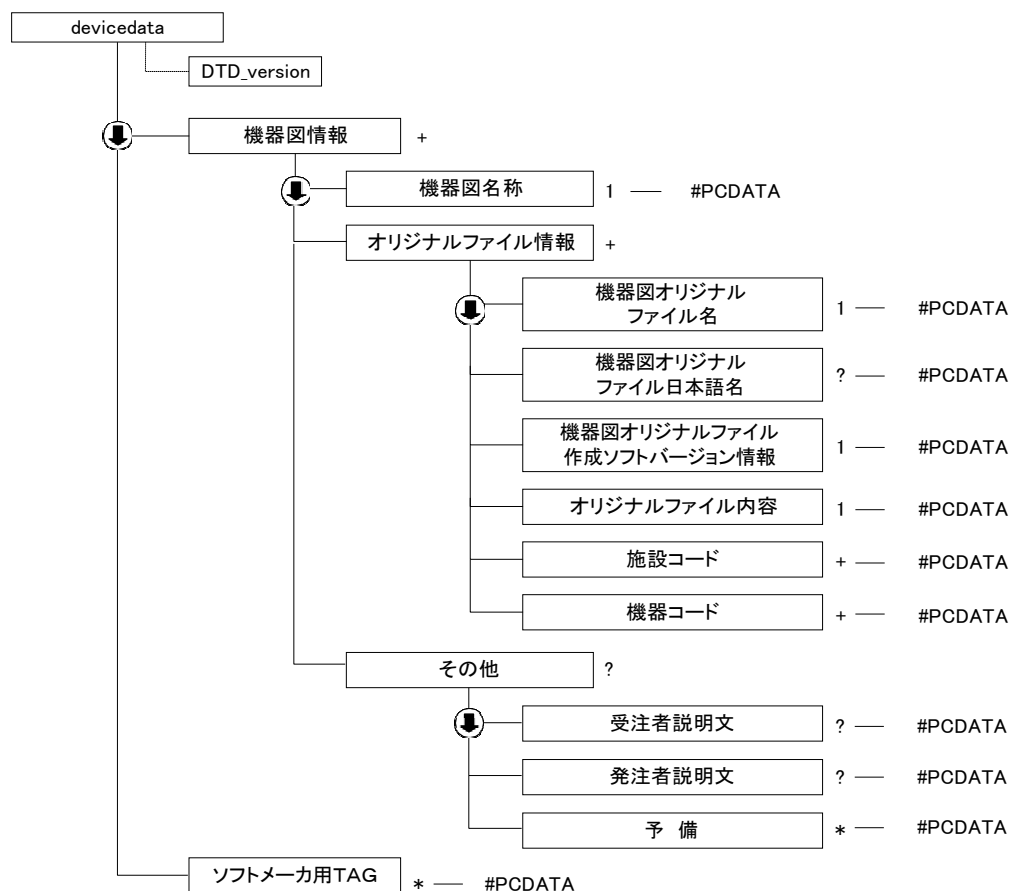
<!ELEMENT 受注者説明文（#PCDATA）>

<!ELEMENT 発注者説明文（#PCDATA）>

<!ELEMENT 予備（#PCDATA）>

<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG（#PCDATA）>

DEVICE03.DTDの構造図



 : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

8 B 施工管理記録書管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する施工管理記録書管理ファイル（BE.XML）の DTD（EXAM03.DTD）を以下に示す。

```
<!--EXAM03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT examdata（施工管理記録書情報+, ソフトメーカー用 TAG*）>
```

```
<!ATTLIST examdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書情報（施工管理記録書名称, オリジナルファイル情報+, その他?）>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書名称（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報（施工管理記録書オリジナルファイル名, 施工管理記録書オリジナルファイル日本語名?, 施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード+, 機器コード+）>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル名（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル日本語名（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT 施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT 施設コード（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT 機器コード（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT その他（受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*）>
```

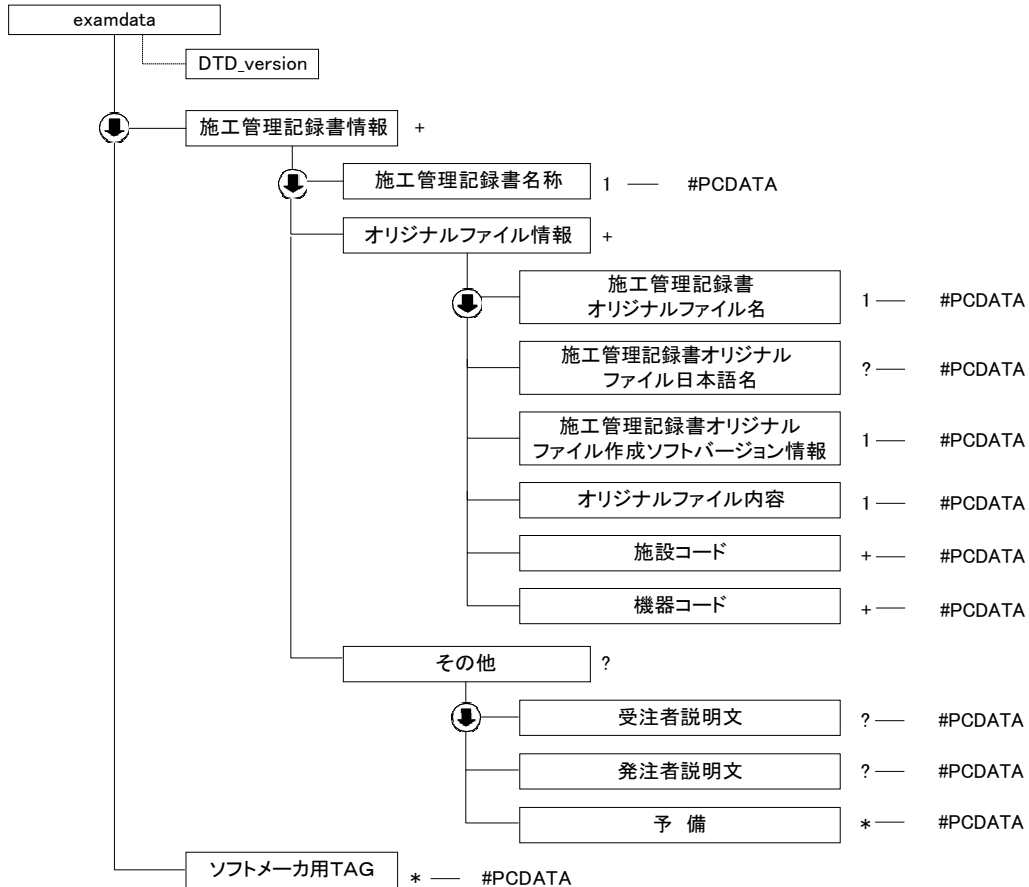
```
<!ELEMENT 受注者説明文（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT 予備（#PCDATA）>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG（#PCDATA）>
```

EXAM03.DTDの構造図



- : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

9 B 取扱説明書管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体（完成図書フォルダ）に添付する取扱説明書管理ファイル（BM.XML）の DTD（MANUAL03.DTD）を以下に示す。

```
<!--MANUAL03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT manualdata (取扱説明書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST manualdata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書情報 (取扱説明書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書名称 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (取扱説明書オリジナルファイル名, 取扱説明書オリジナルファイル日  
本語名?, 取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容, 施設コード  
+, 機器コード+)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施設コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 機器コード (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

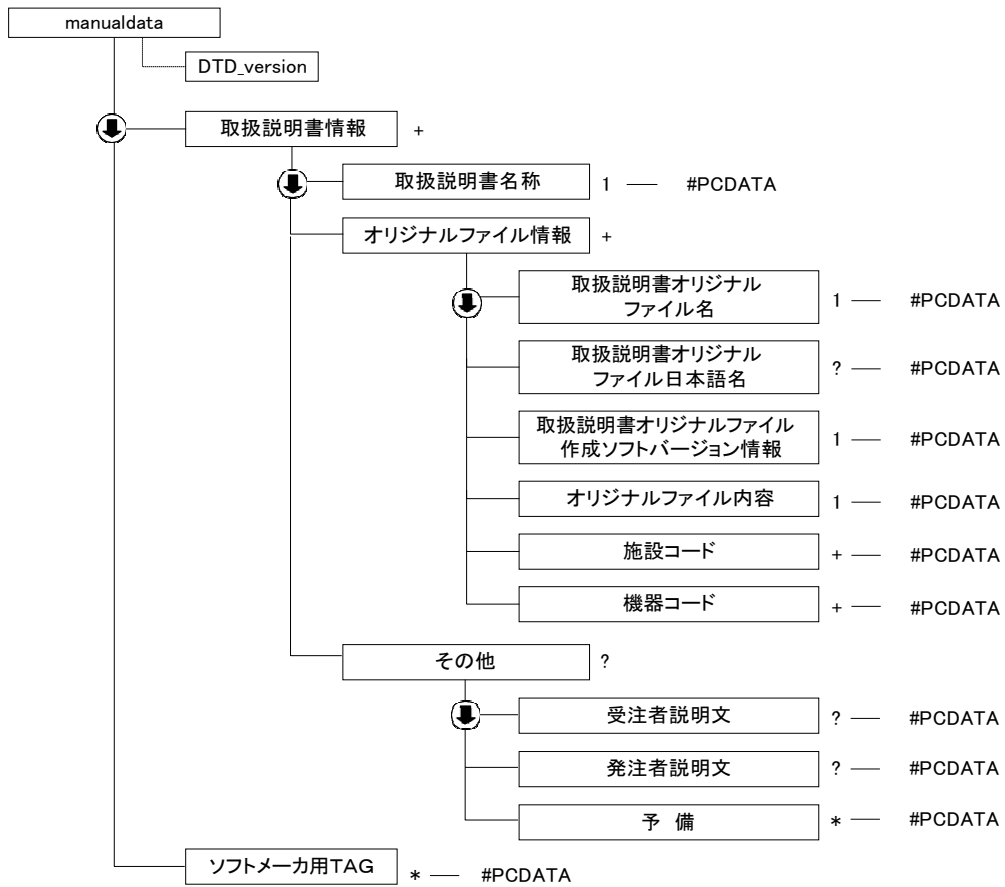
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

MANUAL03.DTDの構造図



- ↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

10 施工計画書管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体に添付する施工計画書管理ファイル (PLAN. XML) の DTD (PLAN03. DTD) を以下に示す。

```
<!--PLAN03.DTD / 2012/12 -->
```

```
<!ELEMENT plandata (施工計画書情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
```

```
<!ATTLIST plandata DTD_version CDATA #FIXED "03">
```

```
<!-- 施工計画書情報 -->
```

```
<!ELEMENT 施工計画書情報 (シリアル番号, 施工計画書名称, オリジナルファイル情報+, その他?)>
```

```
<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工計画書名称 (#PCDATA)>
```

```
<!-- オリジナルファイル情報 -->
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (施工計画書オリジナルファイル名, 施工計画書オリジナルファイル日本語名?, 施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容)>
```

```
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>
```

```
<!-- その他 -->
```

```
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
```

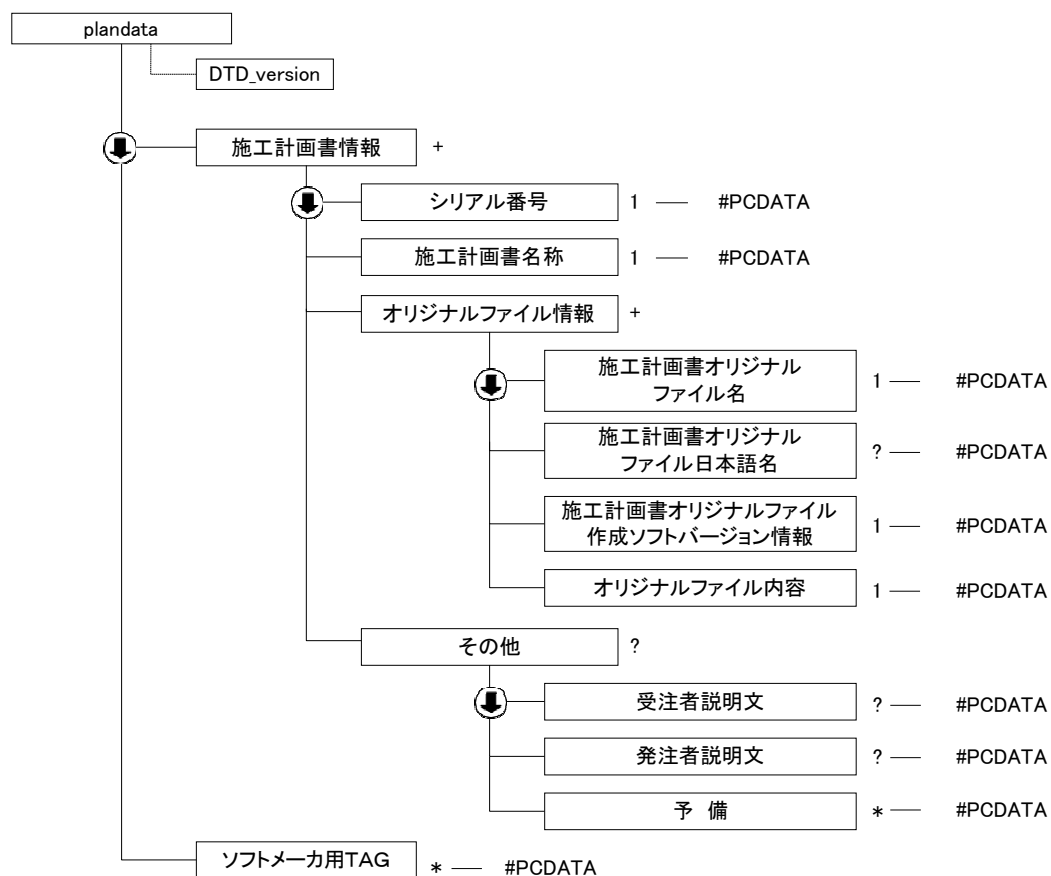
```
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
```

```
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

PLAN03.DTDの構造図



- ↓ : 上から順に記述することを示す。
 1 : 必ず、1回記述する。
 ? : 記述は任意。記述する場合は1回に限る。
 + : 必ず、1回以上記述する。
 * : 記述は任意。複数の記述を認める。

11 打合せ簿管理ファイルの DTD

成果物の電子媒体に添付する打合せ簿管理ファイル (MEET.XML) の DTD (MEET03.DTD) を以下に示す。

```
<!--MEET03.DTD / 2012/12 -->
<!ELEMENT meetdata (打合せ簿情報+, ソフトメーカー用 TAG*)>
<!ATTLIST meetdata DTD_version CDATA #FIXED "03">

<!-- 打合せ簿情報 -->
<!ELEMENT 打合せ簿情報 (シリアル番号, 工事帳票種類, 打合せ簿種類, 打合せ簿名称, 管理区分?, 関連資料?,
作成者, 提出先, 発行日付, 受理日付, 完了日付?, オリジナルファイル情報+, その他?)>
<!ELEMENT シリアル番号 (#PCDATA)>
<!ATTLIST シリアル番号 上位打合せ簿シリアル番号 NMTOKEN #IMPLIED>
<!ATTLIST シリアル番号 下位打合せ簿シリアル番号 NMTOKEN #IMPLIED>
<!ELEMENT 工事帳票種類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿種類 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 管理区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 作成者 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 提出先 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発行日付 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 受理日付 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 完了日付 (#PCDATA)>

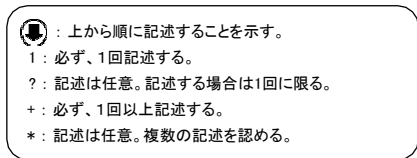
<!-- 関連資料 -->
<!ELEMENT 関連資料 (図面ファイル名*, シリアル番号*)>
<!ELEMENT 図面ファイル名 (#PCDATA)>

<!-- オリジナルファイル情報 -->
<!ELEMENT オリジナルファイル情報 (打合せ簿オリジナルファイル名, 打合せ簿オリジナルファイル日本語
名?, 工種区分+, 打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報, オリジナルファイル内容)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT オリジナルファイル内容 (#PCDATA)>

<!-- 工種区分 -->
<!ELEMENT 工種区分 (工種?, 種別?, 細別?)>
<!ELEMENT 工種 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 種別 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 細別 (#PCDATA)>

<!-- その他 -->
<!ELEMENT その他 (受注者説明文?, 発注者説明文?, 予備*)>
<!ELEMENT 受注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注者説明文 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 予備 (#PCDATA)>
<!ELEMENT ソフトメーカー用 TAG (#PCDATA)>
```

MEET03.DTDの構造図



付属資料 2 管理ファイルの XML 記入例

1 工事管理ファイルのXML 記入例

成果物の電子媒体に格納する工事管理ファイル (INDEX_MC.XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "IND_MC03.DTD">
<!-- <?xml-stylesheet type="text/xsl" href="IND_MC03.XSL"? -->
<constdata DTD_version="03">

<基礎情報>
  <メディア番号>2</メディア番号>
  <メディア総枚数>3</メディア総枚数>
  <適用要領基準>機械 201603-01</適用要領基準>
  <施工図面完成図フォルダ名>DRAWING</施工図面完成図フォルダ名>
  <台帳フォルダ名>REGISTER</台帳フォルダ名>
  <台帳オリジナルファイルフォルダ情報>
    <台帳オリジナルファイルフォルダ名>REGISTER/ORG001</台帳オリジナルファイルフォルダ名>
    <台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>建設材料の品質記録</台帳オリジナルファイルフォルダ日本語名>
  </台帳オリジナルファイルフォルダ情報>
  <地質データフォルダ名>BORING</地質データフォルダ名>
  <その他フォルダ名>OTHR</その他フォルダ名>
  <その他オリジナルファイルフォルダ情報>
    <その他オリジナルファイルフォルダ名>OTHR/ORG001</その他オリジナルファイルフォルダ名>
    <その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>維持管理システム登録データ</その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>
  </その他オリジナルファイルフォルダ情報>
  <完成図書フォルダ名>K_BOOK</完成図書フォルダ名>
  <B 実施仕様書フォルダ名>K_BOOK/B_SPC</B 実施仕様書フォルダ名>
  <B 計算書フォルダ名>K_BOOK/B_CHECK</B 計算書フォルダ名>
  <B 施工図フォルダ名>K_BOOK/B_INST</B 施工図フォルダ名>
  <B 機器図フォルダ名>K_BOOK/B_DEVICE</B 機器図フォルダ名>
  <B 施工管理記録書フォルダ名>K_BOOK/B_EXAM</B 施工管理記録書フォルダ名>
  <B 取扱説明書フォルダ名>K_BOOK/B_MANUAL</B 取扱説明書フォルダ名>
  <写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
  <施工計画書フォルダ名>PLAN</施工計画書フォルダ名>
  <施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>PLAN/ORG</施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>
  <打合せ簿フォルダ名>MEET</打合せ簿フォルダ名>
  <打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>MEET/ORG</打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>
</基礎情報>

<工事件名等>
  <発注年度>2019</発注年度>
  <工事番号>0120190120123</工事番号>
  <工事名称>〇〇排水機場ポンプ設備工事</工事名称>
  <施工金額>360000000</施工金額>
  <工事实績システム登録番号>1234567890</工事实績システム登録番号>
  <工事分野>機械</工事分野>
  <工事業種>機械器具設置工事</工事業種>
```

<工種-工法型式>
 <工種>機械器具設置工事</工種>
 <工法型式>ポンプ設備工</工法型式>
</工種-工法型式>
<住所情報>
 <住所コード>08220</住所コード>
 <住所>茨城県つくば市〇〇3 丁目〇〇番地</住所>
</住所情報>
<工期開始日>2012-04-01</工期開始日>
<工期終了日>2013-03-26</工期終了日>
<工事内容>ポンプ及び付属設備一式</工事内容>
</工事件名等>

<場所情報>
 <測地系>02</測地系>
 <水系-路線情報>
 <対象水系路線名>国道〇号</対象水系路線名>
 <現道-旧道区分>1</現道-旧道区分>
 <対象河川コード>8606040001</対象河川コード>
 <左右岸上下線コード>10</左右岸上下線コード>
 <測点情報>
 <起点側測点-n>0015</起点側測点-n>
 <起点側測点-m>008</起点側測点-m>
 <終点側測点-n>0018</終点側測点-n>
 <終点側測点-m>005</終点側測点-m>
 </測点情報>
 <距離標情報>
 <起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
 <起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
 <終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
 <終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
 </距離標情報>
</水系-路線情報>
 <境界座標情報>
 <西側境界座標経度>1383730</西側境界座標経度>
 <東側境界座標経度>1384500</東側境界座標経度>
 <北側境界座標緯度>0353500</北側境界座標緯度>
 <南側境界座標緯度>0352000</南側境界座標緯度>
 </境界座標情報>
</場所情報>

<発注者情報>
 <発注者-大分類>農林水産省</発注者-大分類>
 <発注者-中分類>〇〇農政局</発注者-中分類>
 <発注者-小分類>〇〇事務所</発注者-小分類>
 <発注者コード>02107999</発注者コード>
</発注者情報>

<受注者情報>
 <受注者名>〇〇建設株式会社△△組共同企業体(代表：〇〇建設株式会社)</受注者名>
 <受注者コード>10012345000</受注者コード>
</受注者情報>

<予備></予備>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</constdata>

2 台帳管理ファイルのXML 記入例

成果物の電子媒体に格納するその他資料管理ファイル (REGIST_M.XML) の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
<!DOCTYPE registerdata SYSTEM "REG_M01.DTD">
<!-- <?xml-stylesheet type="text/xsl" href="REG_M01.XSL"? -->
<registerdata DTD_version="01">

  <ファイル情報>
    <台帳種類>1</台帳種類>
    <台帳種類>3</台帳種類>
  </ファイル情報>

  <台帳情報>
    <台帳名>〇〇排水機場台帳</台帳名>
    <台帳オリジナルファイル情報>
      <台帳オリジナルファイル名>DLI001_1.XML</台帳オリジナルファイル名>
      <台帳オリジナルファイル日本語名>〇〇〇施設台帳. XXX</台帳オリジナルファイル日本語名>
      <台帳オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>XML1.0</台帳オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
      <台帳オリジナルファイル内容>〇〇排水機場台帳</台帳オリジナルファイル内容>
      <施設コード>0210311310001P001</施設コード>
    </台帳オリジナルファイル情報>
    <台帳その他>
      <台帳受注者説明文></台帳受注者説明文>
      <台帳発注者説明文></台帳発注者説明文>
      <台帳予備></台帳予備>
    </台帳その他>
  </台帳情報>

  <サブフォルダ情報>
    <台帳サブフォルダ名>ORG001</台帳サブフォルダ名>
    <台帳サブフォルダ日本語名>建設材料の品質記録</台帳サブフォルダ日本語名>
    <資料情報>
      <資料名>生コンクリート品質管理記録表</資料名>
      <台帳管理区分-大分類>品質記録台帳</台帳管理区分-大分類>
      <台帳管理区分-小分類>生コンクリート品質管理記録表</台帳管理区分-小分類>
      <資料オリジナルファイル情報>
        <シリアル番号>1</シリアル番号>
        <資料オリジナルファイル名>REG03_01. XXX</資料オリジナルファイル名>
        <資料オリジナルファイル日本語名>様式-102 配合</資料オリジナルファイル日本語名>
        <資料オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>〇△□ワープロソフト_2010</資料オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
        <資料オリジナルファイル内容>〇年度の□□□□工事の生コンクリート配合</資料オリジナルファイル内容>
      </資料オリジナルファイル情報>
      <資料その他>
        <資料受注者説明文></資料受注者説明文>
```

<資料発注者説明文></資料発注者説明文>

<資料予備></資料予備>

</資料その他>

</資料情報>

</サブフォルダ情報>

<ソフトメーカー用 TAG>ソフトウェアメーカーが管理のために使用する。(複数入力可)</ソフトメーカー用 TAG>

</registerdata>

3 その他資料管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納するその他資料管理ファイル（OTHERS.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE othrsdata SYSTEM "OTHERS03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="OTHERS03.XSL"?>
<othrsdata DTD_version="03">

  <サブフォルダ情報>
    <その他サブフォルダ名>ORG001</その他サブフォルダ名>
    <その他サブフォルダ日本語名>〇〇システム入力データ</その他サブフォルダ日本語名>
    <その他資料情報>
      <資料名>維持管理〇〇データ</資料名>
      <その他>
        <受注者説明文></受注者説明文>
        <発注者説明文>維持管理において〇〇システムに入力するデータを格納する。</発注者説明文>
      </その他>
    </その他資料情報>
  </サブフォルダ情報>

  <サブフォルダ情報>
    <その他サブフォルダ名>ORG002</その他サブフォルダ名>
    <その他サブフォルダ日本語名>段階確認書</その他サブフォルダ日本語名>
    <その他資料情報>
      <資料名>〇〇に関する段階確認書</資料名>
      <オリジナルファイル情報>
        <シリアル番号>1</シリアル番号>
        <オリジナルファイル名>CHK01_01. XXX</オリジナルファイル名>
        <オリジナルファイル日本語名>20121201 段階確認書. XXX</オリジナルファイル日本語名>
        <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>〇△□ワープロソフト_2010</オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>
        <オリジナルファイル内容>〇〇□に関する段階確認書</オリジナルファイル内容>
      </オリジナルファイル情報>
      <その他>
        <受注者説明文></受注者説明文>
        <発注者説明文>段階確認書が重要書類であることから格納する。</発注者説明文>
        <予備></予備>
      </その他>
    </その他資料情報>
  </サブフォルダ情報>

  <ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</othrsdata>
```

4 実施仕様書管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納する完成図書管理ファイル（BS. XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version=" 1.0" encoding=" Shift_JIS" ?>
<!DOCTYPE specdata SYSTEM "SPC03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="SPC03.XSL"?>
<specdata DTD_version="03">

  <実施仕様書情報>
    <実施仕様書名称>〇〇〇実施仕様書</実施仕様書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <実施仕様書オリジナルファイル名>BS001_1.PDF</実施仕様書オリジナルファイル名>
      <実施仕様書オリジナルファイル日本語名>〇〇〇実施仕様書.XXX</実施仕様書オリジナルファイル日本語名>
      <実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</実施仕様書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>実施仕様書</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>0210311310001P001</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
    </その他>
  </実施仕様書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</specdata>
```

5 計算書管理ファイルのXML 記入例

成果物の電子媒体に格納する計算書管理ファイル（BC.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE checkdata SYSTEM "CHECK03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="CHECK03.XSL"?>
<checkdata DTD_version="03">

  <計算書情報>
    <計算書名称>〇〇計算書</計算書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <計算書オリジナルファイル名>BC001_1.PDF</計算書オリジナルファイル名>
      <計算書オリジナルファイル日本語名>〇〇計算書.XXX</計算書オリジナルファイル日本語名>
      <計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>〇〇ソフト_2010</計算書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇計算書</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>0210311310001P001</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
    </その他>
  </計算書情報>

  <ソフトメーカー用TAG/>

</checkdata>
```

6 施工図管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納する施工図管理ファイル（BI.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE instdata SYSTEM "INST03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="INST03.XSL"?>
<instdata DTD_version="03">

  <施工図情報>
    <施工図名称>〇〇装置図</施工図名称>
    <オリジナルファイル情報>
      <施工図オリジナルファイル名>BI001_1.PDF</施工図オリジナルファイル名>
      <施工図オリジナルファイル日本語名>〇〇装置図.XXX</施工図オリジナルファイル日本語名>
      <施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</施工図オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇〇装置図(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>0210311310001P001</施設コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文/>
      <発注者説明文/>
      <予備/>
    </その他>
  </施工図情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</instdata>
```

7 機器図管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納する機器図管理ファイル（BD.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE devicedata SYSTEM "DEVICE03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="DEVICE03.XSL"?>
<devicedata DTD_version="03">

  <機器図情報>
    <機器図名称>〇〇機器構成図</機器図名称>
    <オリジナルファイル情報>
      <機器図オリジナルファイル名>BD001_1.PDF</機器図オリジナルファイル名>
      <機器図オリジナルファイル日本語名>〇〇機器構成図.XXX</機器図オリジナルファイル日本語名>
      <機器図オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</機器図オリジナルフ
      ァイル作成ソフトウェアバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇〇機器図(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>0210311310001P001</施設コード>
      <機器コード>PP010010000100</機器コード>
      </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
  </機器図情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</devicedata>
```

8 施工管理記録書管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納する施工管理記録書管理ファイル（BE.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE examdata SYSTEM "EXAM03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="EXAM03.XSL"?>
<examdata DTD_version="03">

  <施工管理記録書情報>
    <施工管理記録書名称>〇〇試験成績書</施工管理記録書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工管理記録書オリジナルファイル名>BE001_1.PDF</施工管理記録書オリジナルファイル名>
      <施工管理記録書オリジナルファイル日本語名>〇〇試験成績書.XXX</施工管理記録書オリジナルファイル日本語名>
      <施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</施工管理記録書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇試験成績書(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>0210311310001P001</施設コード>
      <機器コード>PP010010000100</機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
  </施工管理記録書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</examdata>
```

9 取扱説明書管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納する取扱説明書管理ファイル（BM. XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE manualdata SYSTEM "MANUAL03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="MANUAL03.XSL"?>
<manualdata DTD_version="03">

  <取扱説明書情報>
    <取扱説明書名称>〇〇〇取扱説明書</取扱説明書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <取扱説明書オリジナルファイル名>BM001_1.PDF</取扱説明書オリジナルファイル名>
      <取扱説明書オリジナルファイル日本語名>〇〇〇取扱説明書.XXX</取扱説明書オリジナルファイル日本語名>
      <取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>PDF 作成ソフト_8.1</取扱説明書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>〇〇取扱説明書(1/2)</オリジナルファイル内容>
      <施設コード>0210311310001P001</施設コード>
      <機器コード>PP010010000100</機器コード>
    </オリジナルファイル情報>

    <その他>
      <受注者説明文></受注者説明文>
      <発注者説明文></発注者説明文>
      <予備></予備>
    </その他>
  </取扱説明書情報>

  <ソフトメーカー用 TAG/>

</manualdata>
```

10 施工計画書管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納する工事管理ファイル（PLAN.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE plandata SYSTEM "PLAN03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="PLAN03.XSL"?>
<plandata DTD_version="03">

  <施工計画書情報>
    <シリアル番号>1</シリアル番号>
    <施工計画書名称>〇〇〇施工計画書</施工計画書名称>

    <オリジナルファイル情報>
      <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_01.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
      <施工計画書オリジナルファイル日本語名>〇〇〇施工計画書.XXX</施工計画書オリジナルファイル
日本語名>
      <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</
施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
      <オリジナルファイル内容>工事概要、安全管理</オリジナルファイル内容>
      </オリジナルファイル情報>

      <オリジナルファイル情報>
        <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_02.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
        <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽表計算ソフト_2010</施工計画書
オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
        <オリジナルファイル内容>計画工程</オリジナルファイル内容>
        </オリジナルファイル情報>

      <オリジナルファイル情報>
        <施工計画書オリジナルファイル名>PLA01_03.XXX</施工計画書オリジナルファイル名>
        <施工計画書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</施工計画
書オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
        <オリジナルファイル内容>施工方法</オリジナルファイル内容>
        </オリジナルファイル情報>

      <その他>
        <受注者説明文></受注者説明文>
        <発注者説明文></発注者説明文>
        <予備>紙資料：〇〇□図</予備>
        </その他>
    </施工計画書情報>

    <ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

  </plandata>
```

11 打合せ簿管理ファイルの XML 記入例

成果物の電子媒体に格納する工事管理ファイル（MEET.XML）の出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE meetdata SYSTEM "MEET03.DTD">
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="MEET03.XSL"?>
<meetdata DTD_version="03">
```

<打合せ簿情報>

<シリアル番号 下位打合せ簿シリアル番号="2">1</シリアル番号>

<工事帳票種類>打合せ簿</工事帳票種類>

<打合せ簿種類>通知</打合せ簿種類>

<打合せ簿名称>〇〇〇に関する協議</打合せ簿名称>

<管理区分>品質管理</管理区分>

<関連資料>

<図面ファイル名>C0PL001Z.P21</図面ファイル名>

<シリアル番号>200</シリアル番号>

</関連資料>

<作成者>受注者:現場代理人</作成者>

<提出先>発注者</提出先>

<発行日付>2012-04-09</発行日付>

<受理日付>2012-04-15</受理日付>

<完了日付>2012-04-20</完了日付>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0001_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>〇〇〇に関する打合せ簿 0001_01.XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名>

<工種区分>

<工種>〇〇工</工種>

<種別>〇〇舗装工</種別>

<細別>〇〇表層</細別>

</工種区分>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>〇〇〇の通知に関する事項の鑑</オリジナルファイル内容>

</オリジナルファイル情報>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0001_02.XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<工種区分>

<工種>〇〇工</工種>

<種別>〇〇舗装工</種別>

<細別>〇〇表層</細別>

</工種区分>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>△▽〇表計算ソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>〇〇〇の通知に関する事項の本文</オリジナルファイル内容>

</オリジナルファイル情報>

<その他>

<受注者説明文></受注者説明文>

<発注者説明文></発注者説明文>

<予備>〇〇のカタログ</予備>

<予備>〇〇のミルシート</予備>

</その他>

</打合せ簿情報>

<打合せ簿情報>

<シリアル番号 上位打合せ簿シリアル番号="1" 下位打合せ簿シリアル番号="3">2</シリアル番号>

<工事帳票種類>打合せ簿</工事帳票種類>

<打合せ簿種類>提出</打合せ簿種類>

<打合せ簿名称>請負代金内訳書及び工程表</打合せ簿名称>

<管理区分>施工管理</管理区分>

<関連資料>

<図面ファイル名>C0PL002Z. P21</図面ファイル名>

<シリアル番号>225</シリアル番号>

<シリアル番号>228</シリアル番号>

</関連資料>

<作成者>受注者:現場代理人</作成者>

<提出先>発注者</提出先>

<発行日付>2010-04-23</発行日付>

<受理日付>2010-04-25</受理日付>

<完了日付>2010-04-30</完了日付>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0002_01. XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>工程表. XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語名>

<工種区分>

<工種>〇〇工</工種>

<種別>〇〇舗装工</種別>

<細別>〇〇表層</細別>

</工種区分>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>△▽○表計算ソフト_2010</打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>工程表</オリジナルファイル内容>

</オリジナルファイル情報>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0002_02. XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>請負代金内訳書. XXX</打合せ簿オリジナルファイル日本語

名>

<工種区分>

<工種>〇〇工</工種>

<種別>〇〇舗装工</種別>

<細別>〇〇表層</細別>

</工種区分>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>△▽○表計算ソフト_2010</打合せ簿オリ

ジナルファイル作成ソフトバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>請負代金内訳書</オリジナルファイル内容>
</オリジナルファイル情報>

<その他>

<受注者説明文></受注者説明文>

<発注者説明文></発注者説明文>

<予備></予備>

</その他>

</打合せ簿情報>

<打合せ簿情報>

<シリアル番号 上位打合せ簿シリアル番号="2">3</シリアル番号>

<工事帳票種類>打合せ簿</工事帳票種類>

<打合せ簿種類>提示</打合せ簿種類>

<打合せ簿名称>中間技術検査の中止について</打合せ簿名称>

<作成者>発注者：主任監督員</作成者>

<提出先>受注者</提出先>

<発行日付>2012-04-23</発行日付>

<受理日付>2012-04-25</受理日付>

<オリジナルファイル情報>

<打合せ簿オリジナルファイル名>M0003_01. XXX</打合せ簿オリジナルファイル名>

<打合せ簿オリジナルファイル日本語名>20061215 中間技術検査の中止. XXX</打合せ簿オリジナルフ
ァイル日本語名>

<工種区分>

<工種>〇〇工</工種>

<種別>〇〇舗装工</種別>

<細別>〇〇表層</細別>

</工種区分>

<打合せ簿オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>□△▽ワープロソフト_2010</打合せ簿オ
リジナルファイル作成ソフトバージョン情報>

<オリジナルファイル内容>本文</オリジナルファイル内容>

</オリジナルファイル情報>

<その他></その他>

</打合せ簿情報>

<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>

</meetdata>

付属資料 3 図面・書類等の格納例

1 水門設備工事 図面、書類 提出リストと格納フォルダ（例）

フォルダ名

B_SPC:完成図書/実施仕様書、B_CHECK:完成図書/計算書、B_INST:完成図書/施工図、
B_DEVICE:完成図書/機器図、B_EXAM:完成図書/施工管理記録書、B_MANUAL:完成図書/取扱説明書、
DRAWINGF:施工図面・完成図

CAD:CADデータ(原則として SXF(P21)形式)、PDF:PDF

データ、×:提出不要

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
実施仕様書		実施仕様書	B_SPC	—
設計計算書		設計計算書	B_CHECK	—
数量表		重量総括表	B_CHECK	—
		塗装面積総括表	B_CHECK	—
		仕上り重量表	B_CHECK	—
		購入品一覧表	B_CHECK	—
設計図面	全体	全体配置図	B_INST	DRAWINGF
		一般図	B_INST	DRAWINGF
		箱抜き及び挿し筋配置図	B_INST	DRAWINGF
		水密詳細図	B_INST	DRAWINGF
	戸当り	戸当り組立図	B_INST	DRAWINGF
		戸当り製作図	B_INST	DRAWINGF
		戸当り伸縮継手	B_INST	DRAWINGF
		アンカ金物製作図	B_INST	DRAWINGF
	扉体	扉体組立図	B_INST	DRAWINGF
		扉体製作図	B_INST	DRAWINGF
		水密ゴム製作図	B_INST	DRAWINGF
		水密ゴム押え板製作図	B_INST	DRAWINGF
		主ローラ製作図	B_INST	DRAWINGF

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	扉体	サイドローラ製作図	B_INST	DRAWINGF
		シーブ・軸製作図	B_INST	DRAWINGF
		給油配管図	B_DEVICE	DRAWINGF
	開閉(昇降)装置	開閉装置組立図	B_INST	DRAWINGF
		開閉装置駆動部組立図	B_INST	DRAWINGF
		開閉装置従動部組立図	B_INST	DRAWINGF
		荷重分布図	B_INST	DRAWINGF
		アンカ金物配置及び製作図	B_INST	DRAWINGF
		機械台詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ドラム詳細図	B_INST	DRAWINGF
		歯車詳細図	B_INST	DRAWINGF
		軸詳細図	B_INST	DRAWINGF
		軸受詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ドラム軸受詳細図	B_INST	DRAWINGF
		シーブ詳細図	B_INST	DRAWINGF
		シーブブラケット及び軸詳細図	B_INST	DRAWINGF
		休止装置組立図	B_INST	DRAWINGF
		休止装置詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ロープ端末装置	B_DEVICE	—
		非常上限検出装置	B_DEVICE	DRAWINGF
		開度指示装置組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		開度指示装置詳細図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	開閉(昇降)装置	カップリング	B_DEVICE	—
		ブレーキホイール	B_DEVICE	—
		集中給油配置図	B_DEVICE	DRAWINGF
		ギヤカバー詳細図	B_INST	DRAWINGF
		減速機組立図	B_DEVICE	—
		切替装置組立図	B_DEVICE	—
		ワイヤロープ及びソケット	B_DEVICE	—
		シリンダ架台組立図	B_INST	DRAWINGF
		油圧シリンダ組立図	B_DEVICE	—
		シリンダ詳細図	B_DEVICE	—
		開度計組立図	B_DEVICE	—
		開度計詳細図	B_DEVICE	—
		油圧シリンダ点検台	B_INST	DRAWINGF
		油圧ユニット外形図	B_DEVICE	—
		油圧回路図	B_DEVICE	—
		油圧配管組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		油圧配管詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
	制御設備	盤外形図	B_DEVICE	DRAWINGF
		盤内配置図	B_DEVICE	—
		操作フローチャート	B_DEVICE	DRAWINGF
		単線結線図	B_DEVICE	DRAWINGF
		展開接続図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
設計図面	制御設備	配線系統図	B_DEVICE	DRAWINGF
		電路布設図	B_INST	DRAWINGF
		電気機器図	B_DEVICE	—
		配線ピット配置図	B_DEVICE	—
		配線ピット組立図	B_DEVICE	—
		配線ピット詳細図	B_DEVICE	—
	付属設備	付属設備組立図	B_INST	DRAWINGF
		付属設備詳細図	B_INST	DRAWINGF
		付属設備機器図	B_DEVICE	—
取扱説明書		操作説明書	B_MANUAL	—
		主要機器取扱説明書	B_MANUAL	—
		メーカー取扱説明書	B_MANUAL	—
		点検整備要領	B_MANUAL	—
		チェックシート	B_MANUAL	—
		油脂リスト	B_MANUAL	—
		工具・予備品一覧表	B_MANUAL	—
		サービス連絡体制	B_MANUAL	—

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
施工管理記録	工場	原寸検査	B_EXAM	—
		材料検査	B_EXAM	—
		溶接検査	B_EXAM	—
		仮組立検査	B_EXAM	—
		機器性能検査	B_EXAM	—
		塗装検査	B_EXAM	—
	現場	据付基準点検査	B_EXAM	—
		工事材料検査	B_EXAM	—
		据付寸法検査	B_EXAM	—
		溶接検査	B_EXAM	—
		据付機能検査	B_EXAM	—

2 用排水ポンプ設備工事 図面、書類 提出リストと格納フォルダ(例)

フォルダ名

DRAWINGS/SPEC:発注図/特記仕様書オリジナルファイル、PLAN:施工計画書

B_SPC:完成図書/実施仕様書、B_CHECK:完成図書/計算書、B_INST:完成図書/施工図、

B_DEVICE:完成図書/機器図、B_EXAM:完成図書/施工管理記録書、B_MANUAL:完成図書/取扱説明書、

DRAWINGF:施工図面・完成図

CAD:CADデータ(原則として SXF(P21)形式)、PDF:PDF

データ、×:提出不要

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
契約仕様書			DRAWINGS/SPEC	—
全体		製作仕様書	B_SPC	—
		設計計算書	B_CHECK	—
		一般平面図	B_INST	DRAWINGF
		据付平面図	B_INST	DRAWINGF
		据付断面図	B_INST	DRAWINGF
		機器構成図	B_INST	DRAWINGF
		全体フロー図	B_INST	DRAWINGF
		検査試験要領書	B_CHECK	—
		塗装要領書	B_CHECK	—
		写真撮影要領書	×	×
		工程管理表	×	×
(機器単体)	主ポンプ	組立断面図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		ケーシング製作図	×	×
		羽根車製作図	×	×
		主軸製作図	×	×
		軸受製作図	×	×
		その他部品製作図	×	×
		木型図	×	×

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)	主ポンプ	購入部品構造図	B_DEVICE	—
		組立要領図	B_DEVICE	—
	減速機	構造図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		センサー給油系統図	B_DEVICE	DRAWINGF
		歯車製作図	×	×
		軸製作図	×	×
		軸受製作図	×	×
		購入部品構造図	B_DEVICE	—
		組立要領図	B_DEVICE	—
	原動機	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		機器構成図	B_DEVICE	DRAWINGF
		部品製作図	×	×
		潤滑油システムフローシート	B_DEVICE	DRAWINGF
		燃料システムフローシート	B_DEVICE	DRAWINGF
		タイムスケジュール	B_DEVICE	DRAWINGF
		始動停止シーケンスブロック図	B_DEVICE	DRAWINGF
		制御盤詳細図(外形図)	B_DEVICE	DRAWINGF
		サイレンサー外形構造図	B_DEVICE	DRAWINGF
	弁 ダンパー	外形寸法図	B_DEVICE	—
		組立断面図	B_DEVICE	—
		駆動部詳細図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)		弁胴弁体他製作図	×	×
	主配管・主ダクト	配管寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		配管製作図	×	×
		伸縮管構造図	B_DEVICE	—
	補助機器	外形寸法図	B_DEVICE	—
		組立断面図	B_DEVICE	—
	電気品全体	システム構成図	B_DEVICE	—
		システム系統図	B_DEVICE	—
		電源系統図	B_DEVICE	—
		単線接続図	B_DEVICE	DRAWINGF
		操作制御フロー図	B_DEVICE	DRAWINGF
		計装フロー図	B_DEVICE	DRAWINGF
		管理項目表	B_DEVICE	—
	盤関係	製作仕様書	B_DEVICE	—
		容量計算書	B_DEVICE	—
		盤外形図	B_DEVICE	DRAWINGF
		盤内配置図	B_DEVICE	—
		規定値一覧表	B_DEVICE	—
		外部端子図	B_DEVICE	—
		三線接続図	B_DEVICE	—
		展開接続図	B_DEVICE	—

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)	コンピュータ	機能設計図	B_DEVICE	—
		システム機器構成図	B_DEVICE	—
		詳細設計図	×	×
	運転管理装置	製作仕様書	B_DEVICE	—
		ネットワーク構成図	B_DEVICE	DRAWINGF
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		内部配置図	B_DEVICE	—
		外部端子図	B_DEVICE	—
	計装機器	機器仕様書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	—
	除塵装置	全体配図	B_DEVICE	DRAWINGF
		強度計算書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
	除塵機	スクリーン詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		上部詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		駆動部詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
		手摺梯子詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		製缶加工組立図	×	×
	コンベア	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
		製缶加工組立図	×	×

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(機器単体)	ホツパ	外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		給油装置図	B_DEVICE	—
		手摺架台詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		製缶加工組立図	×	×
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
	クレーン	強度計算書	B_DEVICE	—
		外形寸法図	B_DEVICE	DRAWINGF
		全体組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		クラブ組立図	B_DEVICE	DRAWINGF
		歩道手摺詳細図	B_DEVICE	DRAWINGF
		購入部品寸法図	B_DEVICE	—
(工事図)		輸送計画書	PLAN	—
		据付要領書	PLAN	—
		機器組立要領書	PLAN	—
		基礎図	B_INST	DRAWINGF
		基礎詳細図	B_INST	DRAWINGF
		ピット図	B_INST	DRAWINGF
		ピット金物詳細図	B_INST	DRAWINGF
		小配管系統図	B_INST	DRAWINGF
		小配管図	B_INST	DRAWINGF
		小配管詳細図	B_INST	DRAWINGF
		小配管サポート図	B_INST	DRAWINGF

項目	機器名	図面名称	完成図書フォルダ	施工図面・完成図 フォルダ
			PDF	CAD
(工事図)		ダクト配置図	B_INST	DRAWINGF
		ダクト取付図	B_INST	DRAWINGF
		盤据付図	B_INST	DRAWINGF
		全体配線図	B_INST	DRAWINGF
		配線表	B_INST	DRAWINGF
		クレーン取付図	B_INST	DRAWINGF
		試運転要領書	B_CHECK	—
(管理用図書)		機器試験表	B_EXAM	—
		据付記録	B_EXAM	—
		施工管理記録書	B_EXAM	—
		試運転記録	B_EXAM	—
		官公庁等届書	B_EXAM	—
		運転操作概要書	B_MANUAL	—
		取扱説明書	B_MANUAL	—
		油脂リスト	B_MANUAL	—
		メーカーリスト	B_MANUAL	—
		予備品リスト	B_MANUAL	—
		工具リスト	B_MANUAL	—
		緊急連絡先	B_MANUAL	—

付属資料 4 場所情報の記入方法

場所情報に関わる記入方法を以下に示す。

(1) 工事件名等

1) 住所コード

住所コードは、下記 URL で公開されている住所コード表から選択し、記入する。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/sonota.html

住所コードは、総務省が公開している全国地方公共団体コード 6 桁のうち第 6 桁の検査数字を除いた 5 桁の数字である。第 1 桁及び第 2 桁の 2 桁の番号が都道府県コード、第 3 桁、第 4 桁及び第 5 桁の 3 桁の番号が市区町村コードである。

下記 URL で全国地方公共団体コードが公開されている。

総務省 全国地方公共団体コード

<http://www.soumu.go.jp/denshijiti/code.html>

2) 「住所コード」と「住所」の XML 表記例

- 対象地区が 1 市区町村内の 1 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
</住所情報>
```

- 対象地区が 1 市区町村内の 2 箇所である場合

```
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区赤坂 7 丁目</住所>
  <住所>東京都港区新橋 1 丁目</住所>
</住所情報>
```

該当市区町村数分繰り返す。

- 対象地区が複数市区町村の場合（該当する住所がすべて列記可能な場合）

```
<住所情報>
  <住所コード>13102</住所コード>
  <住所>東京都中央区日本橋 3 丁目</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所>東京都港区</住所>
</住所情報>
<住所情報>
  <住所コード>13109</住所コード>
  <住所>東京都品川区東品川 4 丁目</住所>
</住所情報>
```

: : :

該当市区町村数分繰り返す。

- ・対象地区が複数市区町村の場合（設計図書等の住所で代表する場合）

```

<住所情報>
  <住所コード>13102</住所コード>
  <住所コード>13103</住所コード>
  <住所コード>13109</住所コード>
  <住所>東京都中央区日本橋他地内</住所>
</住所情報>

```

中央区の他、港区及び品川区に該当する場合

- ・対象地区が 1 都道府県全域の場合

```

<住所情報>
  <住所コード>28000</住所コード>
  <住所>兵庫県</住所>
</住所情報>

```

- ・対象地区が発注者の管内全域等の広域に渡る場合

```

<住所情報>
  <住所コード>31000</住所コード>
  <住所コード>32000</住所コード>
  <住所コード>33000</住所コード>
  <住所コード>34000</住所コード>
  <住所コード>35000</住所コード>
  <住所>〇〇農政局管内</住所>
</住所情報>

```

住所コードは、管内の該当地域の数を繰り返す

（当該地域の範囲により、県コード・市区町村コードを選択できる。）

- ・特定の地域に該当しない場合

```

<住所情報>
  <住所コード>99999</住所コード>
  <住所>対象地域なし</住所>
</住所情報>

```

(2) 場所情報

1) 「対象水系路線名」の XML 表記例

- ・対象地域が特定の水系に位置する場合

```

<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>利根川水系</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>

```

- ・対象地域が複数の路線に該当する場合

```

<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>津軽自動車道</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>
<水系-路線情報>
  <対象水系路線名>八戸・久慈自動車道</対象水系路線名>
  :
</水系-路線情報>

```

2) 「対象河川コード」の XML 表記例

```

<対象河川コード>860604nnnn</対象河川コード>

```

淀川の例である。なお下 4 桁(nnnn)は河川番号を示しており、「河川コード仕様書」を準拠し、0001 から連番により付与する。

3) 「左右岸上下線コード」の XML 表記例

- ・対象地域が道路の上り線に位置する場合

```

<左右岸上下線コード>10</左右岸上下線コード>

```

- ・対象地域が河川の両岸に位置する場合

```

<左右岸上下線コード>01</左右岸上下線コード>
<左右岸上下線コード>02</左右岸上下線コード>

```

両岸の場合は左岸と右岸を列記する。

4) 「距離標」の XML 表記例

- ・起点側からの距離標が 31K45、終点側の距離標が 36K67 の場合

```

<起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
<起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
<終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
<終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>

```

5) 境界座標（緯度経度）

「境界座標」は世界測地系(JGD2011)に準拠する。なお、境界座標を JGD2000 の測地系で取得した場合には、JGD2011 の座標に変換する必要はない。その範囲は対象範囲を囲む矩形の領域を示し、西側及び東側の経度と北側及び南側の緯度を各々度(3 桁)分(2 桁)秒(2 桁)で表される 7 桁の数値を記入する。特定の地域に該当しない工事については、「99999999」(対象地域なし)を各項目に記入する。「境界座標」は「対象領域の外側」を記入する。なお、対象領域が南緯及び西経の場合は頭文字に「-」(HYPHEN-MINUS)を記入する。

境界座標(緯度・経度)の値が明確である場合は、発注者と受注者間で確認の上、その値を管理項目に記入する。境界座標(緯度・経度)の値が不明確である場合は、地形図等から読み取るなどして、その値を管理項目に記入する。その時の精度は、工事範囲にもよるが 100m 程度を目安とする(経緯度の 1 秒は地上距離で約 30m に相当する)。工

事範囲が大きくなれば一般に精度も粗くなるが、可能な範囲の精度で取得することが望ましい。

なお、座標の調査方法については、次頁に示すような方法により調査できる。

6) 「境界座標」のXML 表記例

- ・ 対象地域が明らかな場合

```
<西側境界座標経度>1380929</西側境界座標経度>  
<東側境界座標経度>1381212</東側境界座標経度>  
<北側境界座標緯度>0351377</北側境界座標緯度>  
<南側境界座標緯度>0350213</南側境界座標緯度>
```

- ・ 特定の地域に該当しない場合

```
<西側境界座標経度>9999999</西側境界座標経度>  
<東側境界座標経度>1381212</東側境界座標経度>  
<北側境界座標緯度>0351377</北側境界座標緯度>  
<南側境界座標緯度>0350213</南側境界座標緯度>
```

(3) 境界座標の調査方法(例)

境界座標の調査方法としては、次の 5 つがある。

- 1) 測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス
- 2) 地理院地図（電子国土 Web）による境界座標の調査方法
- 3) 地形図による境界座標の調査方法
- 4) 都道府県の東西南北端点と重心の経度緯度の調査方法
- 5) 既知の平面直角座標を変換する方法

各調査方法を以下に示す。

1) 測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス

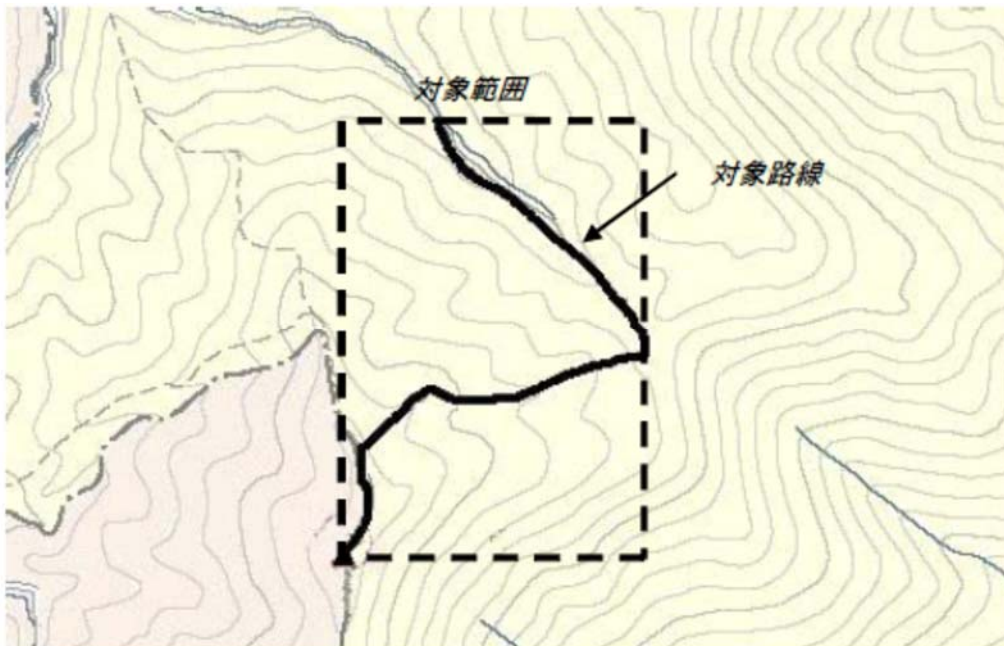
国土地理院では、業務・工事管理項目の境界座標に関する入力支援サービスのシステムを一般公開しており、インターネットが利用可能な環境であれば無償でサービスを利用することができる。

測量成果電子納品「業務管理項目」境界座標入力支援サービス

<http://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/rect/index.html>

2) 地理院地図(電子国土 Web)による境界座標の調査方法

- 1 工事対象範囲を地図等におとし、左下隅及び右上隅を確認する。対象範囲が路線区間である場合は、対象路線の外側を工事対象範囲とする。



付図 4-1 工事対象範囲の取得方法

- 2 Web ブラウザより下記 URL のホームページに接続すると、「地理院地図」が表示される。

<http://maps.gsi.go.jp/>

- 3 画面下部の  をクリックするか、地形図上任意点を右クリックし、コンテキストメニュー（住所、経緯度等の位置情報）を表示する。（その時点で表示されている地形図中心の位置情報が表示される。）



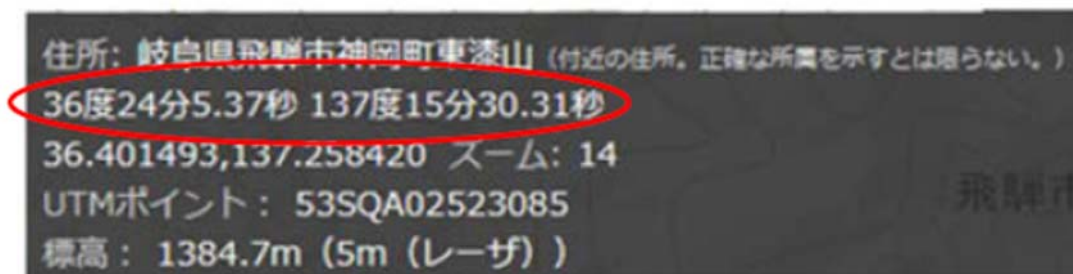
付図 4-2 コンテキストメニューの表示

- 4 適宜、拡大・縮小・スクロール等の操作を行い、該当する地域を表示し、表示された地形図上で、1 で確認した対象範囲の左下隅をマウスでクリッ クする。



付図 4-3 対象範囲の左下の指示

- 5 クリックした地点の緯度経度が表示される。表示された緯度を「南側境界座標緯度」、経度を「西側境界座標経度」に記入する。
(緯度、経度は度-分-秒単位で記入する。)

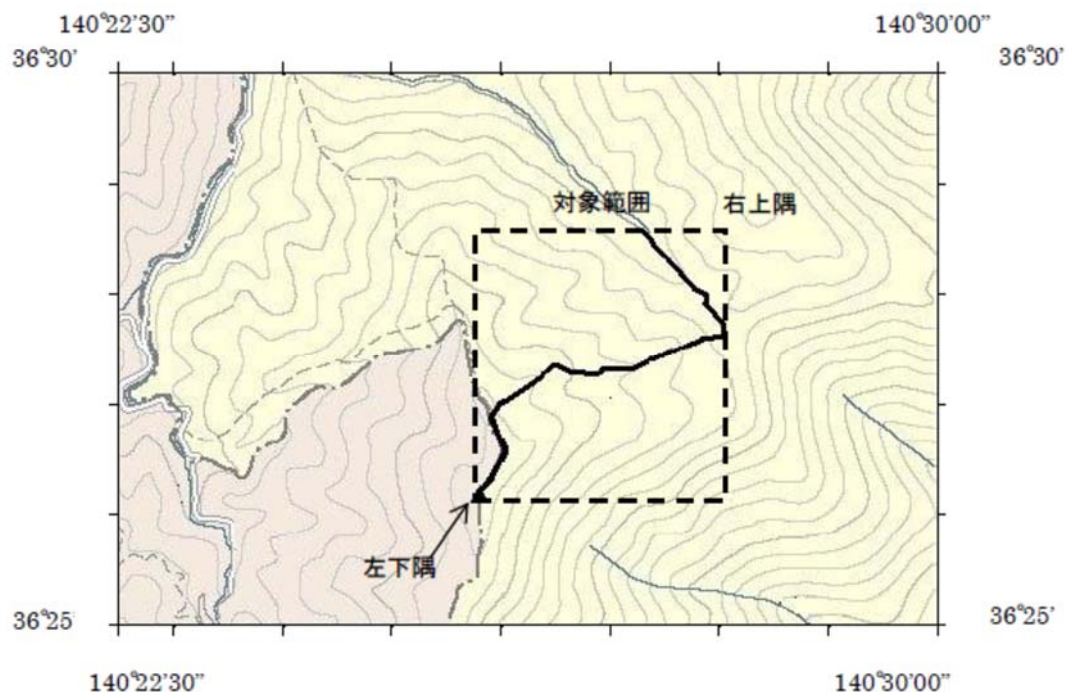


付図 4-4 緯度経度の表示

- 6 4、5 と同様の手順で対象範囲の右上隅をマウスでクリックし、表示された緯度を「北側境界座標緯度」、経度を「東側境界座標経度」に記入する。

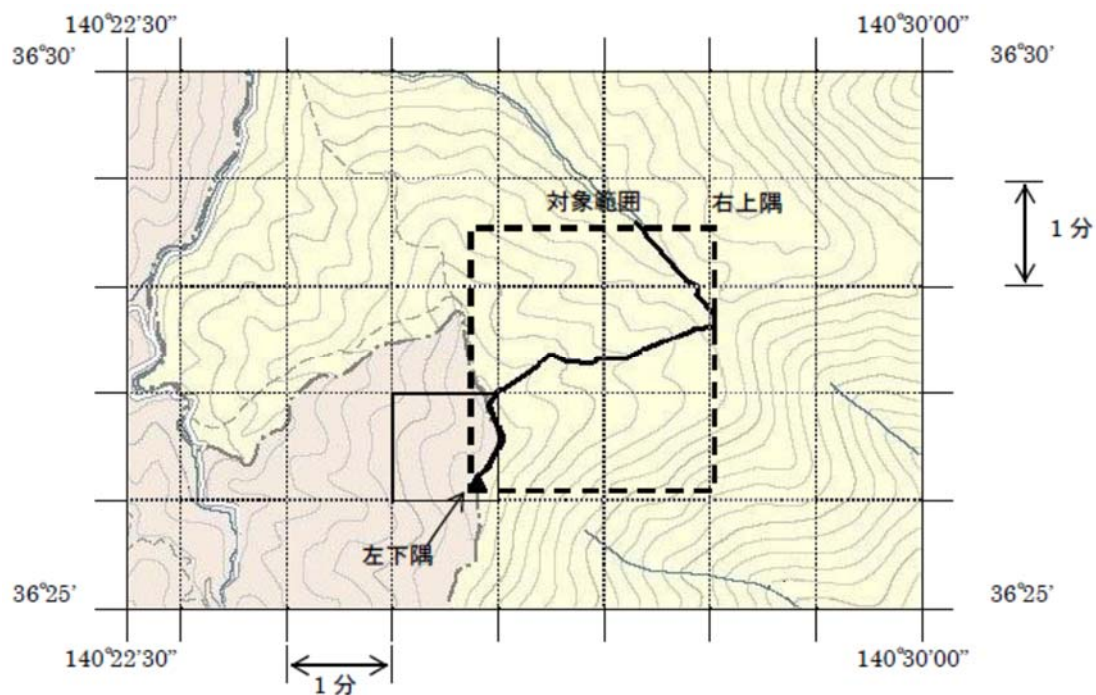
3) 地形図による境界座標の調査方法

- 1 工事対象範囲を地形図（1/25,000、1/50,000、1/200,000）におとし、左下隅及び右上隅を確認する。対象範囲が路線区間である場合は、対象路線の外側を工事対象範囲とする。



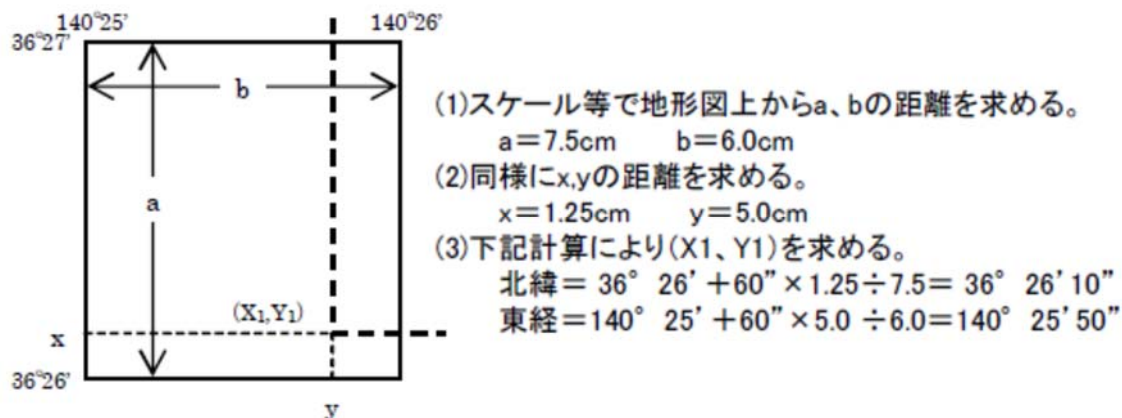
付図 4-5 工事対象範囲の取得方法

- 2 地形図が 1/25,000 の場合には、図郭線上に 1 分ごとの目盛りがきざまれているので、これらの目盛りを使用し、下図のように経緯度 1 分ごとのメッシュ（方眼）を作図する。



付図 4-6 メッシュ図（1/25,000 地形図）

- 3 対象範囲の左下隅を含むメッシュ（二重線で囲まれた部分）を下図のように取り出し、比例配分等により秒数を計算し、**左下隅** (X_1, Y_1) の座標を求める。求められた北緯 X_1 を「南側境界座標緯度」に、東経 Y_1 を「西側境界座標経度」に記入する。



付図 4-7 メッシュ拡大図

- 4 右上隅も同様の手順で、北緯を「北側境界座標緯度」に、東経を「東側境界座標経度」に記入する。
- 4) 都道府県の東西南北端点と重心の経度緯度の調査方法
 各都道府県の東西側の経度、南北側の緯度については、下記 URL のホームページを参照して記入することができる。

(参照先：日本の東西南北端点の経度緯度)

国土地理院

<http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOH0/center.htm>

- 5) 既知の平面直角座標を変換する方法

平面図等で既に対象範囲の平面直角座標が判明している場合は、それらの値を緯度経度に変換して境界座標に記入することができる。

(インターネット上で利用可能な変換プログラム例)

国土地理院

<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/main.html>

付属資料 5 XML 文書作成における留意点

XML 文書の作成にあたっての留意点を以下に示す。

- XML 文書における文字セットは、「8-2 使用文字」によるものとする。
- XML 文書の文字符号化方式は、XML 文書の標準符号化方式である Unicode 形式の UTF-16、または UTF-8 を基本とすべきであるが、コンピュータシステムの現状を鑑み、Shift_JIS とする。
- 提出する XML 文書には、DTD を埋め込む方式をとらず、外部ファイル参照方式を採用する。
- XML の予約文字（JIS X 0201（ラテン文字用図形文字）の不等号（より小）（<）、不等号（より大）（>）、アンパサンド（&）、アポストロフ（'）、引用符（"））については、実体参照を用いることで使用することができる。以下に実体参照を示す。

表付 5-1 実体参照

記号	実体参照
”	"
&	&
'	'
<	<
>	>

- XML 文書の作成は、「JIS X 4159:2005 拡張可能なマーク付け言語(XML)1.0」を参照すること。